

I 五類定点把握感染症（性感染症を除く）

1. 2020年の総括

2020（令和2）年の大阪府感染症発生動向調査事業における五類定点把握感染症（性感染症を除く）の特徴について概説する（表）。2020年は、全ての小児科定点疾患、眼科定点疾患、基幹定点疾患が減少傾向にあった。この理由は、2020年、新型コロナウイルス感染症流行に伴う、新しい生活様式への変化（手洗い、マスクの着用、身体的距離の確保、密閉、密集、密接の回避）、および、小中学校・義務教育学校・高校の休校措置によると考えられる。米国を始めとして、諸外国の報告でも、新型コロナウイルス感染症流行時に、小児感染症やインフルエンザの報告数が激減しており、同じ理由だと考えられる。

全国では、定点あたりの年平均の週間報告数として、感染性胃腸炎、インフルエンザ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、流行性角結膜炎、咽頭結膜熱、水痘、ヘルパンギーナの順であった。大阪府では、インフルエンザ、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、咽頭結膜熱、水痘、ヘルパンギーナ、流行性角結膜炎の順であり、全国の発生動向や傾向と若干の相違が認められている。

大阪府の発生動向について、2019年と比較すると、インフルエンザの年平均の週間報告数が5.63から2.70へ、昨年より、52.0%の減少が見られた。また、感染性胃腸炎の年平均の週間報告数が5.39から2.28へ、昨年より、57.7%の減少が見られた。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が2.19から0.90へ、昨年より、58.9%の減少が見られた。

（文責：本村）

表 定点あたり年平均の週間報告数

全 国			大 阪 府		
順位	感染症	定点あたり 報告数	順位	感染症	定点あたり 報告数
1	感染性胃腸炎	2.51	1	インフルエンザ	2.70
2	インフルエンザ	2.16	2	感染性胃腸炎	2.28
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.20	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.90
4	突発性発しん	0.39	4	突発性発しん	0.37
5	流行性角結膜炎	0.25	5	咽頭結膜熱	0.20
6	咽頭結膜熱	0.21	6	水痘	0.17
7	水痘	0.19	7	ヘルパンギーナ	0.15
8	ヘルパンギーナ	0.15	8	流行性角結膜炎	0.13

1) 2020 年に注目された感染症

[新型コロナウイルス感染症]

背 景

新型コロナウイルス感染症（Coronavirus disease 2019: COVID-19）は、2019 年 12 月、中華人民共和国湖北省武漢市において世界で初めて確認された。日本国内では 2020 年 1 月 15 日、大阪府では 1 月 29 日に初の COVID-19 患者が確認された。世界保健機関（World Health Organization: WHO）は、2020 年 1 月 30 日、COVID-19 について、国際保健規則に基づき「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（Public Health Emergency of International concern: PHEIC）」を宣言した。その後、WHO は世界的な感染拡大の状況、重症度等から 2020 年 3 月 11 日、COVID-19 をパンデミック（世界的な大流行）とみなせると表明した。日本において、2 月 1 日に COVID-19 は指定感染症および検疫感染症に指定された。

COVID-19 は新興感染症であることから、臨床症状や感染様式等の新しい知見が日々蓄積されており、2020 年 2 月 7 日時点で 2-12.5 日とされていた COVID-19 の潜伏期間は、2020 年 6 月 30 日時点には平均で 5-6 日、最大で 14 日間とされた¹⁾。

COVID-19 症例発生状況

大阪府内では 2020 年第 6 週（2020 年 2 月 3 日～2 月 9 日）から 2020 年第 53 週（2020 年 12 月 28 日～2021 年 1 月 3 日）までに新型コロナウイルス感染症（COVID-19）症例が 31,089 例報告されている（図 1）。（2020 年 2 月 3 日以前は 2020 年 1 月 29 日判明の 1 例が武漢市関連症例として報告されているが、指定感染症の指定前の症例であったため、本報告書の解析からは除外している。）

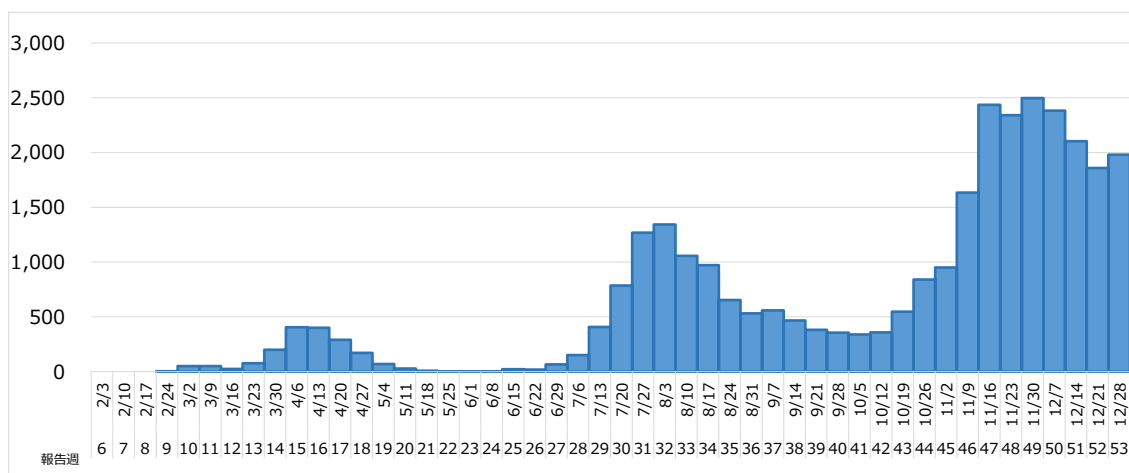


図 1 大阪府内症例の判明週別流行曲線 2020 年 2 月 3 日～2021 年 1 月 3 日* (n= 31,089)

*2021 年 1 月 3 日までに新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム(HER-SYS)に受付された症例が含まれる

指定感染症となって以降、大阪では2020年第9週に初めてCOVID-19が報告されたが、その直後の第10週から報告数が急増し50例、第15週には400例を超えた。

2020年は第15週から17週毎に3つのピークが形成されており、そのそれぞれのピークは新しいピークになるほど大きくなる傾向が見られ、第15週（4月6日～4月12日）は405例、第32週（8月3日～8月9日）は1,343例、第49週（11月30日～12月6日）は2,497例であった。

感染拡大時期には、感染拡大防止策が国または大阪府で積極的に実施された。2020年4月7日には新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく政府の“緊急事態宣言”に基づき、大阪府は「不要不急の外出の自粛」と「イベント開催の自粛」などを要請した。8月6日～20日にはミナミ地区の一部区域を対象にした接待を伴う飲食店等に対する休業要請、5人以上での飲食の自粛要請（8月1日～31日）による積極的な感染拡大防止策が実施された。また、11月27日～12月15日には大阪市北区・中央区への施設休業等の要請、12月16日～12月29日には大阪市全域への施設休業等の要請が実施された。

大阪府内で2月1日以降判明した症例31,089例のうち男性が16,467例（53%）であった（図2）。年齢分布は20歳～50歳代で65%を占め、30歳および40歳代では男性の割合が57%と他の年齢階級より高い傾向にあった（図2）。10歳代未満の症例割合は少なかった。

年齢階級別の人口10万人あたり症例数（表1）は20歳代で最も高く、続いて30歳代、40歳代であった。他方、10歳未満の症例数は最も少なかった。

2020年2月3日～2021年1月3日に報告された症例のうち死亡例は616例であり致死率は2.0%であった（表2）。男性の致死率は2.2%で、女性の1.8%に比べて致死率が高かった。年齢階級別、性別の致死率は80歳以上の男性で最も高く18.0%であった。この期間においては30歳代以下の死亡例は確認されていない。

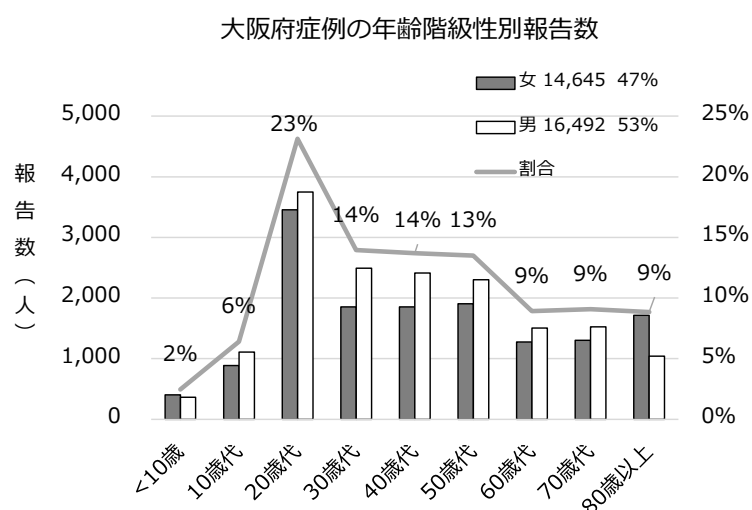


図2 大阪府内症例の年齢階級別性別報告数
2020年2月3日～2021年1月3日（n= 31,089）

表1 10万人あたり症例報告数*

年齢階級	累計		府内人口
	累積報告数(人)	10万人当り報告数(人)	府内人口** (千人)
≥80歳	2,746	394.5	696
70歳代	2,824	254.2	1,111
60歳代	2,778	257.5	1,079
50歳代	4,198	376.5	1,115
40歳代	4,256	310.2	1,372
30歳代	4,344	426.7	1,018
20歳代	7,192	759.5	947
10歳代	1,990	252.5	788
<10歳	761	110.9	686
計	31,089	352.8	8,813

* 大阪府内で報告された症例であり、府外在住症例を含む。

**人口は令和元年度大阪府統計年鑑による。

表2 2020年2月3日～2021年1月3日報告例における累計死亡例数(人)*

年齢階級	男			女			計		
	症例数	死亡数	致死率(%)	症例数	死亡数	致死率(%)	症例数	死亡数**	致死率(%)
≥80歳	1,037	187	18.0	1,709	201	11.8	2,746	388	14.1
70歳代	1,521	117	7.7	1,303	44	3.4	2,824	161	5.7
60歳代	1,503	38	2.5	1,275	11	0.9	2,778	49	1.8
50歳代	2,298	13	0.6	1,900	1	0.1	4,198	14	0.3
40歳代	2,409	4	0.2	1,847	0	0.0	4,256	4	0.1
30歳代	2,490	0	0.0	1,854	0	0.0	4,344	0	0.0
20歳代	3,743	0	0.0	3,449	0	0.0	7,192	0	0.0
10歳代	1,105	0	0.0	885	0	0.0	1,990	0	0.0
<10歳	361	0	0.0	400	0	0.0	761	0	0.0
計	16,467	359	2.2	14,622	257	1.8	31,089	616	2.0

致死率は(死亡例数/同年齢階級の累計症例数)で算出。

*2021/1/20日時点で死亡が確認されている症例

**新型コロナ関連死亡として報告されたもの

参 考 文 献

- 1) WHO coronavirus disease 2019 (COVID-19) situation report-73 (2 April 2020).
<https://www.who.int/docs/default-source/coronaviruse/situation-reports/20200402-sitrep-73-covid-19.pdf>

(文責：柿本)

2) 感染症別・週別患者報告状況

「2020年（令和2）年の総括」で記した疾患について、定点あたり報告数の最高値が報告された週や最高値を示した（表1）。2020年は、新型コロナウイルス感染症流行に伴う、新しい生活様式への変化（手洗い、マスクの着用、身体的距離の確保、密閉、密集、密接の回避）、および、3月2日に小中学校・義務教育学校・高校の休校措置による報告数の減少を勘案する必要がある。インフルエンザは、2019年と同じ1月第4週に最高値 21.19を示したが、過去5年と比べて、最も低い定点あたり報告数となった。2020年1月は、A型インフルエンザウイルス H1pdm型が主として検出され、B型インフルエンザウイルスはVictoria系統が検出されていた。感染性胃腸炎は、毎年、12月に最高値に到達するが、2020年は、1月第5週に最高値を示している。その後は、0.63（5月第1週）から2.77（12月第3週）と、例年に比べ、非常に低い報告数で推移している。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、毎年、二峰性の流行パターンを示すが、2017年と2018年は5月に、2019年は12月に最高値に達しているが、2020年は1月第5週であった。近年、マイコプラズマ肺炎が、上位5疾患に入ることは稀であるが、2020年は1月第2週に最高値を示した。水痘は、2020年は1月第2週に最高値を示した。上記の5疾患は、2020年1月中に最高値を示しており、新型コロナウイルス感染症が注目された前後である。その後、非医療的（行政）介入によって、報告数が減少しており、2020年の感染症発生動向の特徴であると考えられる。

2020年と2019年における感染症発生動向の増減を比較すると、2020年は、全ての小児科定点疾患、眼科定点疾患、基幹定点疾患が減少傾向にあった（表2）。特に、減少率が一番大きかったのは、感染性胃腸炎（ロタウイルス）で前年比98.4%減、次いで、手足口病で97.0%、RSウイルス感染症で91.0%、伝染性紅斑で89.0%、ヘルパンギーナが73.0%減と続く。手足口病は奇数年に流行し、伝染性紅斑は4年周期に流行し2019年が当該年であるため、前年比の減少率が大きかったと考えられる。感染性胃腸炎（ロタウイルス）、RSウイルス感染症、ヘルパンギーナは、新しい生活様式への変化や学校一斉休校のため、大幅に減少したと考えられる。

（文責：本村）

表1. 定点あたり報告数の最高値が報告された週および最高値（2020年）

大阪府				
	疾患	定点あたり報告数の最高値が報告された週	定点あたり報告数の最高値	警報レベル開始基準値
1	インフルエンザ	4週（1月第4週）	21.19	30
2	感染性胃腸炎	5週（1月第5週）	5.74	20
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5週（1月第5週）	3.16	8
4	マイコプラズマ肺炎	2週（1月第2週）	0.69	未設定
5	水痘	2週（1月第5週）	0.54	2

表2. 2020年と2019年における感染症発生動向比較

インフルエンザ定点疾患	2020年	2019年
インフルエンザ ↓	42,963	88,389

小児科定点疾患	2020年	2019年
RSウイルス感染症 ↓	1,129	12,478
咽頭結膜熱 ↓	2,049	5,167
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 ↓	9,386	22,513
感染性胃腸炎 ↓	23,692	55,374
水痘 ↓	1,776	3,227
手足口病 ↓	622	20,733
伝染性紅斑 ↓	754	6,840
突発性発しん ↓	3,809	3,867
ヘルパンギーナ ↓	1,554	5,756
流行性耳下腺炎 ↓	558	836
合計	45,329	136,791

眼科定点疾患	2020年	2019年
急性出血性結膜炎 ↓	11	21
流行性角結膜炎 ↓	359	875
合計	370	896

基幹定点疾患	2020年	2019年
細菌性髄膜炎 ↓	10	18
無菌性髄膜炎 ↓	15	31
マイコプラズマ肺炎 ↓	93	129
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	1	1
感染性胃腸炎（ロタウイルス） ↓	6	382
合計	125	561

3) 感染症別・ブロック別患者報告状況

大阪府内を 11 ブロック（① 豊能、② 三島、③ 北河内、④ 中河内、⑤ 南河内、⑥ 堺市、⑦ 泉州、⑧ 大阪市北部、⑨ 大阪市西部、⑩ 大阪市東部、⑪ 大阪市南部）に分け、各ブロックの構成市町村、定点数、人口、出生数を解析評価した。感染症別に、1 年間でより流行が認められた地域を定点あたりの年平均報告数を表に要約した。年平均の定点あたり報告数から地域ブロックを評価した場合、上位 8 疾患のうち、南河内は 3 疾患（感染性胃腸炎、手足口病、伝染性紅斑）で首位を占めていた（表）。一方、豊能ブロックは 3 疾患（A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RS ウイルス感染症、伝染性紅斑）で、最下位であった。

（文責：本村）

表. 感染症別・ブロック別患者報告状況（網掛けは最高ブロックと定点あたり報告数）

インフルエンザ		感染性胃腸炎		A 群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		手足口病	
豊能	2.17	豊能	1.70	豊能	0.44	豊能	0.04
三島	1.68	三島	1.98	三島	0.62	三島	0.03
北河内	2.94	北河内	2.42	北河内	1.15	北河内	0.08
中河内	3.04	中河内	3.08	中河内	1.11	中河内	0.05
南河内	3.34	南河内	3.39	南河内	1.15	南河内	0.08
堺市	2.64	堺市	1.41	堺市	0.92	堺市	0.06
泉州	2.54	泉州	2.75	泉州	1.20	泉州	0.06
大阪市北部	3.54	大阪市北部	2.16	大阪市北部	0.79	大阪市北部	0.08
大阪市西部	5.32	大阪市西部	2.49	大阪市西部	0.85	大阪市西部	0.03
大阪市東部	1.76	大阪市東部	1.12	大阪市東部	0.53	大阪市東部	0.05
大阪市南部	2.08	大阪市南部	2.51	大阪市南部	0.99	大阪市南部	0.07
府内平均	2.70	府内平均	2.28	府内平均	0.90	府内平均	0.06

RS ウイルス感染症		伝染性紅斑		ヘルパンギーナ		咽頭結膜熱	
豊能	0.04	豊能	0.03	豊能	0.05	豊能	0.11
三島	0.07	三島	0.06	三島	0.16	三島	0.22
北河内	0.10	北河内	0.05	北河内	0.11	北河内	0.21
中河内	0.12	中河内	0.07	中河内	0.07	中河内	0.31
南河内	0.18	南河内	0.23	南河内	0.26	南河内	0.14
堺市	0.06	堺市	0.04	堺市	0.13	堺市	0.12
泉州	0.15	泉州	0.08	泉州	0.31	泉州	0.29
大阪市北部	0.18	大阪市北部	0.08	大阪市北部	0.15	大阪市北部	0.21
大阪市西部	0.20	大阪市西部	0.03	大阪市西部	0.13	大阪市西部	0.09
大阪市東部	0.06	大阪市東部	0.08	大阪市東部	0.04	大阪市東部	0.18
大阪市南部	0.10	大阪市南部	0.05	大阪市南部	0.26	大阪市南部	0.23
府内平均	0.11	府内平均	0.07	府内平均	0.15	府内平均	0.20

4) 感染症別・年齢別患者報告状況

インフルエンザ定点、基幹定点を除いた小児科定点における年齢報告数で最も多かった年齢は 1 歳代、次いで 5 歳代、1 歳未満、4 歳代、と続く。1 歳代の報告数の多い疾患は、感染性胃腸炎、咽頭結膜熱、手足口病、突発性発しん、ヘルパンギーナ、であった。インフルエンザは 10-14 歳代の報告数が多かった。20 歳以上の報告数の多い疾患は、急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎である。5 歳代の報告数の多い疾患は、伝染性紅斑、流行性耳下腺炎であった。4 歳代の報告数の多い疾患は、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。水痘は 10-14 歳代の報告数が多かった。

インフルエンザは、小児科定点に加え、内科定点医療機関からも報告されるため、10 歳から 14 歳代の報告数が最多で、次いで 20 歳以上であった。小学校、中学校、職場など、集団生活を送る世代に多い疾患である。眼科定点疾患の急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎は 20 歳以上が多い。

(文責：本村)

表. 定点あたり報告数の最高値が報告された年齢区分
(網掛けは最高年齢区分と定点あたり報告数)

疾患名	最高値が報告された年齢区分
インフルエンザ	10～14 歳代
R S ウイルス感染症	1 歳未満
咽頭結膜熱	1 歳代
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4 歳代
感染性胃腸炎	1 歳代
水痘	10～14 歳代
手足口病	1 歳代
伝染性紅斑	5 歳代
突発性発しん	1 歳代
ヘルパンギーナ	1 歳代
流行性耳下腺炎	5 歳代
急性出血性結膜炎	20 歳以上
流行性角結膜炎	20 歳以上

2020年 感染症別・週別報告状況（全国集計）

	1月					2月					3月				
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	
インフルエンザ	64,864	90,915	83,238	89,579	70,130	44,944	37,214	30,681	23,645	15,544	6,390	2,670	1,341	750	
RSウイルス感染症	657	1,027	866	1,035	1,126	1,021	867	915	885	857	770	496	346	338	
咽頭結膜熱	660	1,656	1,063	1,307	1,239	1,437	1,198	1,243	1,047	1,067	949	800	620	484	
A群溶血性レン球菌咽頭炎	2,193	7,700	7,740	10,092	11,067	11,307	10,329	11,630	9,491	9,242	7,337	5,412	5,049	4,648	
感染性胃腸炎	5,293	19,305	19,041	22,691	21,973	20,176	18,201	17,653	13,109	11,283	9,103	6,959	6,719	5,935	
水痘	945	2,063	940	1,363	957	1,243	1,171	1,250	1,191	1,157	1,111	829	754	637	
手足口病	345	622	480	524	516	462	392	348	299	248	290	253	230	179	
伝染性紅斑	489	1,983	1,610	1,667	1,486	1,256	978	959	802	803	829	666	687	526	
突発性発しん	284	1,016	963	976	953	909	915	949	790	833	842	910	934	1,023	
ヘルパンギーナ	41	103	59	69	96	72	70	60	72	78	55	43	47	77	
流行性耳下腺炎	68	180	174	181	147	172	166	156	146	150	157	148	156	141	
急性出血性結膜炎	4	8	5	4	8	1		4	3	5	5	1	10	7	
流行性角結膜炎	158	464	294	276	301	289	284	307	296	297	189	183	220	180	
細菌性髄膜炎	3	8	5	13	8	6	10	6	10	8	12	3	10	15	
無菌性髄膜炎	3	10	12	12	11	9	10	12	8	9	12	7	6	7	
マイコプラズマ肺炎	75	223	160	152	151	147	144	192	175	172	209	120	102	106	
クラミジア肺炎（オム病を除く）		1		2			3	4	1	3	1	2	7	2	
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	8	8	4	18	26	16	27	5	14	10	10	7	6	9	

	7月				8月						9月			
	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	
インフルエンザ	9	3	4	8	1	6		2	3	2	4	7	7	
RSウイルス感染症	42	52	42	62	108	64	97	96	177	173	231	205	209	
咽頭結膜熱	501	564	521	635	525	414	579	470	553	542	555	397	475	
A群溶血性レン球菌咽頭炎	3,132	2,987	2,230	2,230	1,974	1,079	1,686	1,647	1,827	1,786	1,974	1,527	2,220	
感染性胃腸炎	6,870	7,152	5,485	6,720	5,578	3,337	5,696	5,727	6,170	5,944	5,795	4,538	5,451	
水痘	383	321	344	363	355	330	364	287	302	336	387	361	394	
手足口病	436	386	378	481	552	338	519	449	486	437	387	359	363	
伝染性紅斑	59	52	56	57	58	28	27	44	32	37	38	31	49	
突発性発しん	1,789	1,717	1,546	1,674	1,478	1,000	1,550	1,651	1,611	1,607	1,553	1,170	1,371	
ヘルパンギーナ	725	1,098	1,264	1,454	2,264	1,202	1,302	1,624	1,292	1,124	1,090	636	831	
流行性耳下腺炎	189	182	140	204	133	87	174	166	171	191	182	140	157	
急性出血性結膜炎	8	4	4	2	1	1	6	4	3	2	2		1	
流行性角結膜炎	131	133	111	168	152	96	173	173	178	152	163	113	175	
細菌性髄膜炎	8	5	3	5	9	7	4	3	10	3	11	7	3	
無菌性髄膜炎	9	12	10	4	9	9	8	9	12	8	7	9	9	
マイコプラズマ肺炎	26	24	29	41	52	25	30	28	33	31	30	13	31	
クラミジア肺炎（オム病を除く）	1	1	1	1	1	3			1				1	
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	2	1		1	2		2	4	1	2	2	2	2	

I 五類定点把握感染症（性感染症を除く）

4月				5月				6月				
15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週
431	235	119	65	24	15	14	9	15	7	6	9	11
278	248	131	68	26	22	13	18	24	22	18	17	46
454	421	430	419	253	294	243	269	343	405	442	422	479
3,982	3,421	2,589	2,015	1,181	1,796	1,687	1,958	2,223	2,306	2,260	2,692	2,926
5,088	4,652	3,801	3,247	2,318	3,473	3,610	4,128	4,893	5,424	5,837	6,368	6,547
538	487	351	339	235	299	276	265	304	347	282	241	320
167	163	108	127	116	174	164	234	334	406	390	333	417
494	380	258	293	166	199	141	147	102	82	69	53	48
1,070	1,021	1,124	1,009	748	1,098	1,187	1,405	1,625	1,780	1,816	1,797	1,816
86	64	70	53	40	40	52	100	124	153	275	450	635
128	158	139	123	108	126	146	140	165	192	201	197	189
7	7	3	3	2	2	2	4	1	2	5	5	2
162	132	121	83	76	97	99	99	115	112	112	135	137
4	12	10	8	4	10	11	6	11	10	11	14	9
10	5	11	5	5	4	5	10	11	13	10	9	16
113	90	111	54	36	50	31	31	37	41	23	23	26
1	3	1	1	1	2	1		4	1	1	1	1
4	6	7	3	3	4	2	2	2		2	3	2

10月				11月					12月				合計
41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	53週	
17	20	29	32	23	22	44	49	63	58	71	69	69	563,487
308	284	305	383	346	325	326	309	328	383	396	433	276	18,097
359	425	462	495	569	660	804	757	845	943	973	993	465	35,125
2,469	2,369	2,509	2,422	2,026	2,284	2,563	2,000	2,490	2,517	2,501	2,419	1,082	200,223
5,412	5,434	5,592	5,500	5,688	6,588	7,556	6,696	7,657	8,921	9,243	10,007	4,455	420,039
376	435	481	561	590	641	738	691	676	665	604	566	322	31,768
429	399	360	387	323	327	384	356	418	367	323	278	121	18,364
38	52	53	35	32	44	44	32	40	48	45	25	18	18,247
1,406	1,379	1,347	1,368	1,226	1,320	1,427	1,218	1,218	1,237	1,207	1,116	558	65,537
819	836	741	709	506	493	426	388	421	371	245	226	121	25,292
173	159	167	132	132	151	166	145	143	137	135	117	46	8,073
1	1	3	5	4	3	3	4	1	4	2	3	3	185
166	169	145	163	127	179	172	152	171	171	132	136	62	9,081
4	7	7	5	12	5	4	7	4	8	10	12	6	406
9	13	9	7	9	8	8	9	8	5	8	5	1	456
31	37	33	29	19	34	28	22	25	23	18	20	14	3,520
				1	1					1			57
		2	1	2	1	1	1		1	3	2	7	250

2020年 感染症別・週別定点あたり報告状況（全国集計）

	1月					2月					3月				
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	
インフルエンザ	13.94	18.31	16.74	18.02	14.12	9.06	7.49	6.19	4.77	3.14	1.29	0.54	0.27	0.15	
RSウイルス感染症	0.22	0.32	0.27	0.33	0.35	0.32	0.27	0.29	0.28	0.27	0.24	0.16	0.11	0.11	
咽頭結膜熱	0.22	0.52	0.33	0.41	0.39	0.45	0.38	0.39	0.33	0.34	0.30	0.25	0.20	0.15	
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	0.74	2.43	2.44	3.18	3.49	3.57	3.26	3.67	3.00	2.92	2.32	1.71	1.60	1.47	
感染性胃腸炎	1.79	6.09	6.00	7.15	6.92	6.36	5.74	5.57	4.14	3.56	2.87	2.21	2.13	1.88	
水痘	0.32	0.65	0.30	0.43	0.30	0.39	0.37	0.39	0.38	0.37	0.35	0.26	0.24	0.20	
手足口病	0.12	0.20	0.15	0.17	0.16	0.15	0.12	0.11	0.09	0.08	0.09	0.08	0.07	0.06	
伝染性紅斑	0.17	0.63	0.51	0.53	0.47	0.40	0.31	0.30	0.25	0.25	0.26	0.21	0.22	0.17	
突発性発しん	0.10	0.32	0.30	0.31	0.30	0.29	0.29	0.30	0.25	0.26	0.27	0.29	0.30	0.32	
ヘルパンギーナ	0.01	0.03	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	
流行性耳下腺炎	0.02	0.06	0.05	0.06	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.04	
急性出血性結膜炎	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01			0.01		0.01	0.01		0.01	0.01	
流行性角結膜炎	0.25	0.67	0.42	0.40	0.43	0.42	0.41	0.44	0.42	0.42	0.27	0.26	0.31	0.26	
細菌性髄膜炎	0.01	0.02	0.01	0.03	0.02	0.01	0.02	0.01	0.02	0.02	0.03	0.01	0.02	0.03	
無菌性髄膜炎	0.01	0.02	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02	0.03	0.01	0.01	0.01	
マイコプラズマ肺炎	0.16	0.47	0.33	0.32	0.31	0.31	0.30	0.40	0.37	0.36	0.44	0.25	0.21	0.22	
クラミジア肺炎（ワム病を除く）							0.01	0.01		0.01			0.01		
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.02	0.02	0.01	0.04	0.05	0.03	0.06	0.01	0.03	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	

	7月				8月						9月			
	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	
インフルエンザ														
RSウイルス感染症	0.01	0.02	0.01	0.02	0.03	0.02	0.03	0.03	0.06	0.05	0.07	0.06	0.07	
咽頭結膜熱	0.16	0.18	0.17	0.20	0.17	0.14	0.18	0.15	0.17	0.17	0.18	0.13	0.15	
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	0.99	0.94	0.71	0.71	0.63	0.35	0.54	0.52	0.58	0.57	0.63	0.48	0.70	
感染性胃腸炎	2.17	2.26	1.74	2.13	1.79	1.10	1.81	1.81	1.95	1.88	1.85	1.44	1.72	
水痘	0.12	0.10	0.11	0.11	0.11	0.11	0.12	0.09	0.10	0.11	0.12	0.11	0.12	
手足口病	0.14	0.12	0.12	0.15	0.18	0.11	0.16	0.14	0.15	0.14	0.12	0.11	0.11	
伝染性紅斑	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	
突発性発しん	0.57	0.54	0.49	0.53	0.47	0.33	0.49	0.52	0.51	0.51	0.50	0.37	0.43	
ヘルパンギーナ	0.23	0.35	0.40	0.46	0.72	0.39	0.41	0.51	0.41	0.36	0.35	0.20	0.26	
流行性耳下腺炎	0.06	0.06	0.04	0.06	0.04	0.03	0.06	0.05	0.05	0.06	0.06	0.04	0.05	
急性出血性結膜炎	0.01	0.01	0.01				0.01	0.01						
流行性角結膜炎	0.19	0.19	0.16	0.24	0.22	0.14	0.25	0.25	0.26	0.22	0.24	0.16	0.25	
細菌性髄膜炎	0.02	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	
無菌性髄膜炎	0.02	0.03	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.02	0.01	0.02	0.02	
マイコプラズマ肺炎	0.05	0.05	0.06	0.09	0.11	0.05	0.06	0.06	0.07	0.06	0.06	0.03	0.06	
クラミジア肺炎（ワム病を除く）						0.01								
感染性胃腸炎（ロタウイルス）								0.01						

I 五類定点把握感染症（性感染症を除く）

4月				5月				6月				
15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週
0.09	0.05	0.02	0.01									
0.09	0.08	0.04	0.02	0.01	0.01		0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
0.14	0.13	0.14	0.13	0.08	0.09	0.08	0.09	0.11	0.13	0.14	0.13	0.15
1.26	1.09	0.82	0.65	0.37	0.57	0.53	0.62	0.70	0.73	0.72	0.85	0.92
1.61	1.48	1.21	1.04	0.74	1.10	1.14	1.31	1.55	1.72	1.85	2.01	2.07
0.17	0.15	0.11	0.11	0.07	0.09	0.09	0.08	0.10	0.11	0.09	0.08	0.10
0.05	0.05	0.03	0.04	0.04	0.06	0.05	0.07	0.11	0.13	0.12	0.11	0.13
0.16	0.12	0.08	0.09	0.05	0.06	0.04	0.05	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02
0.34	0.32	0.36	0.32	0.24	0.35	0.38	0.44	0.51	0.56	0.58	0.57	0.57
0.03	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	0.03	0.04	0.05	0.09	0.14	0.20
0.04	0.05	0.04	0.04	0.03	0.04	0.05	0.04	0.05	0.06	0.06	0.06	0.06
0.01	0.01						0.01			0.01	0.01	
0.23	0.19	0.17	0.12	0.11	0.14	0.14	0.14	0.17	0.16	0.16	0.19	0.20
0.01	0.03	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02	0.03	0.02
0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02	0.03
0.24	0.19	0.23	0.11	0.08	0.10	0.06	0.06	0.08	0.09	0.05	0.05	0.05
	0.01							0.01				
0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01						0.01	

10月				11月					12月				平均
41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	53週	
		0.01	0.01			0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	2.16
0.10	0.09	0.10	0.12	0.11	0.10	0.10	0.10	0.10	0.12	0.13	0.14	0.09	0.11
0.11	0.13	0.15	0.16	0.18	0.21	0.25	0.24	0.27	0.30	0.31	0.31	0.15	0.21
0.78	0.75	0.79	0.77	0.64	0.72	0.81	0.63	0.79	0.80	0.79	0.77	0.35	1.20
1.71	1.71	1.77	1.74	1.80	2.08	2.39	2.12	2.42	2.82	2.92	3.17	1.44	2.51
0.12	0.14	0.15	0.18	0.19	0.20	0.23	0.22	0.21	0.21	0.19	0.18	0.10	0.19
0.14	0.13	0.11	0.12	0.10	0.10	0.12	0.11	0.13	0.12	0.10	0.09	0.04	0.11
0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.11
0.44	0.44	0.43	0.43	0.39	0.42	0.45	0.39	0.38	0.39	0.38	0.35	0.18	0.39
0.26	0.26	0.23	0.22	0.16	0.16	0.13	0.12	0.13	0.12	0.08	0.07	0.04	0.15
0.05	0.05	0.05	0.04	0.04	0.05	0.05	0.05	0.05	0.04	0.04	0.04	0.01	0.05
			0.01	0.01			0.01		0.01				0.00
0.24	0.24	0.21	0.23	0.18	0.26	0.25	0.22	0.25	0.25	0.19	0.20	0.09	0.25
0.01	0.01	0.01	0.01	0.03	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.03	0.01	0.02
0.02	0.03	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01		0.02
0.06	0.08	0.07	0.06	0.04	0.07	0.06	0.05	0.05	0.05	0.04	0.04	0.03	0.14
													0.00
										0.01		0.01	0.01

2020年 感染症別・週別報告状況（大阪府内集計）

		1月					2月				3月				
		1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週
定点数	インフルエンザ*	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300
	小児科	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197
	眼科	51	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	
	基幹	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	
インフルエンザ		3,348	5,689	5,569	6,358	5,078	3,480	3,493	3,321	2,965	2,197	760	306	157	92
RSウイルス感染症		42	96	91	93	97	68	86	78	65	78	46	44	27	33
咽頭結膜熱		12	78	42	63	81	92	69	69	55	59	53	48	27	28
A群溶血性レンカ球菌咽頭炎		81	415	415	524	623	566	481	545	414	432	371	236	254	228
感染性胃腸炎		315	1,127	906	1,102	1,131	957	881	996	697	595	499	358	391	326
水痘		40	107	58	65	62	71	42	70	62	58	51	41	38	33
手足口病		6	32	13	21	14	19	16	15	9	4	10	7	10	12
伝染性紅斑		19	103	82	67	62	53	26	42	38	36	29	27	34	20
突発性発しん		12	60	42	53	62	56	47	56	42	47	45	51	71	54
ヘルパンギーナ			2	1	6	6	6	4	2	5	5	3	2	4	4
流行性耳下腺炎		1	10	16	17	7	3	11	7	9	5	15	7	6	8
急性出血性結膜炎			2	1	1										1
流行性角結膜炎		1	12	5	9	10	9	9	7	9	10	8	6	14	9
合計（RSウイルス-流行性角結膜炎）		529	2,044	1,672	2,021	2,155	1,900	1,672	1,887	1,405	1,329	1,130	827	876	756
細菌性髄膜炎				1				1				1			
無菌性髄膜炎			1	2							1	1			1
マイコプラズマ肺炎			11	5	4	7	4	5	5	6	11	1	6	4	2
クラミジア肺炎（オウム病を除く）															1
感染性胃腸炎（ロタウイルス）									1						
合計（細菌性髄膜炎-ロタウイルス）			12	8	4	7	4	6	6	6	12	3	6	5	3

		7月				8月					9月			
		28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週
定点数	インフルエンザ*	300	300	300	300	300	300	300	300	301	301	301	300	299
	小児科	196	196	196	196	196	196	196	196	197	197	197	196	195
	眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
	基幹	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
インフルエンザ		3		1					1	1		2		5
RSウイルス感染症		2	1	1	3	1		1	3		2	2	2	3
咽頭結膜熱		25	30	30	53	31	44	58	35	56	65	50	44	40
A群溶血性レンカ球菌咽頭炎		132	122	76	103	75	53	77	74	81	115	118	73	88
感染性胃腸炎		409	417	314	390	340	171	370	383	383	419	384	316	346
水痘		19	14	27	20	23	17	14	13	20	10	20	29	16
手足口病		14	13	15	15	20	8	18	15	23	18	17	11	13
伝染性紅斑		3	2	2	1	4	1			2		2		2
突発性発しん		108	111	91	114	90	67	92	95	116	97	88	67	78
ヘルパンギーナ		21	31	29	40	52	29	46	80	64	93	95	61	94
流行性耳下腺炎		5	19	9	17	11	11	17	7	15	6	13	12	15
急性出血性結膜炎														
流行性角結膜炎		3	4	5	9	5		9	13	13	13	4	6	5
合計（RSウイルス-流行性角結膜炎）		741	764	599	765	652	401	702	718	773	838	793	621	700
細菌性髄膜炎										1		1		
無菌性髄膜炎			1		1	1		1	1					
マイコプラズマ肺炎		1	1		2	2			1		1	1		
クラミジア肺炎（オウム病を除く）														
感染性胃腸炎（ロタウイルス）		1											1	
合計（細菌性髄膜炎-ロタウイルス）		2	2		3	3		1	2	1	1	2	1	

I 五類定点把握感染症（性感染症を除く）

4月				5月				6月				
15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週
299	299	299	299	299	299	298	298	299	300	300	300	300
196	196	196	196	196	196	195	195	195	196	196	196	196
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
41	10	2	1	1	2	2		3		1	2	1
27	27	9			3		2	3	1		3	10
22	23	15	9	6	12	9	6	5	16	11	15	29
163	108	83	83	60	70	53	67	73	94	83	117	123
296	244	224	210	123	189	234	235	291	327	377	407	407
26	27	10	20	15	18	13	18	20	16	11	14	21
7	13	8	8	4	14	5	24	15	18	26	15	16
13	13	7	10	6	5	2	7	2	2	3	1	
63	60	56	55	46	70	66	74	93	119	108	104	103
9		4	5	3	4	9	18	8	6	9	11	20
7	12	7	16	10	11	13	14	10	13	16	12	13
				1			1		1	1		
4	6	7	4	3	3	1	6	3	5	4	4	9
637	533	430	420	277	399	405	472	523	618	649	703	751
					2							2
						1		1	1			
4	1				4	1			1			
4	1				6	2		1	2			2

10月				11月					12月				合計
41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	53週	
299	299	299	298	299	299	299	298	298	298	298	298	298	15,871
195	195	195	195	196	196	196	196	196	196	196	196	196	10,397
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	2,755
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	848
3	2	1	2	8	2	4	6	11	4	12	10	6	42,963
2	5	3	3	2	3	1	7	9	14	13	14	3	1,129
30	34	38	39	35	46	49	43	49	49	58	50	14	2,049
89	99	114	110	118	107	129	106	142	141	121	118	43	9,386
354	352	375	359	364	393	449	446	439	446	470	542	216	23,692
15	27	22	25	32	47	52	52	69	61	45	37	23	1,776
4	10	4	3	5	4	7	9	5	3	3	4		622
1	3	1	1	2			2	3	4	4	5		754
85	73	90	72	60	78	79	67	64	74	64	50	24	3,809
75	94	96	76	71	59	55	41	47	21	11	11	6	1,554
12	10	7	10	2	14	10	10	9	8	14	14	5	558
							2						11
9	9	6	6	5	10	11	10	8	8	9	2		359
676	716	756	704	696	761	842	795	844	829	812	847	334	45,699
1													10
	1												15
	1										1		93
													1
										2		1	6
1	2									2	1	1	125

2020年 感染症別・週別定点あたり報告状況（大阪府内集計）

	1月					2月				3月				
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週
定点数	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300
インフルエンザ	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300
小児科	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197
眼科	51	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
基幹	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
インフルエンザ	11.16	18.96	18.56	21.19	16.93	11.60	11.64	11.07	9.88	7.32	2.53	1.02	0.52	0.31
RSウイルス感染症	0.21	0.49	0.46	0.47	0.49	0.35	0.44	0.40	0.33	0.40	0.23	0.22	0.14	0.17
咽頭結膜熱	0.06	0.40	0.21	0.32	0.41	0.47	0.35	0.35	0.28	0.30	0.27	0.24	0.14	0.14
A群溶血性链球菌咽頭炎	0.41	2.11	2.11	2.66	3.16	2.87	2.44	2.77	2.10	2.19	1.88	1.20	1.29	1.16
感染性胃腸炎	1.60	5.72	4.60	5.59	5.74	4.86	4.47	5.06	3.54	3.02	2.53	1.82	1.98	1.65
水痘	0.20	0.54	0.29	0.33	0.31	0.36	0.21	0.36	0.31	0.29	0.26	0.21	0.19	0.17
手足口病	0.03	0.16	0.07	0.11	0.07	0.10	0.08	0.08	0.05	0.02	0.05	0.04	0.05	0.06
伝染性紅斑	0.10	0.52	0.42	0.34	0.31	0.27	0.13	0.21	0.19	0.18	0.15	0.14	0.17	0.10
突発性発しん	0.06	0.30	0.21	0.27	0.31	0.28	0.24	0.28	0.21	0.24	0.23	0.26	0.36	0.27
ヘルパンギーナ		0.01	0.01	0.03	0.03	0.03	0.02	0.01	0.03	0.03	0.02	0.01	0.02	0.02
流行性耳下腺炎	0.01	0.05	0.08	0.09	0.04	0.02	0.06	0.04	0.05	0.03	0.08	0.04	0.03	0.04
急性出血性結膜炎		0.04	0.02	0.02										0.02
流行性角結膜炎	0.02	0.23	0.10	0.17	0.19	0.17	0.17	0.13	0.17	0.19	0.15	0.12	0.27	0.17
細菌性髄膜炎			0.06				0.06				0.06			
無菌性髄膜炎		0.06	0.13							0.06	0.06			0.06
マイコプラズマ肺炎		0.69	0.31	0.25	0.44	0.25	0.31	0.31	0.38	0.69	0.06	0.38	0.25	0.13
クラミジア肺炎（ワム病を除く）													0.06	
感染性胃腸炎（ロタウイルス）							0.06							

	7月				8月						9月			
	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	
定点数	300	300	300	300	300	300	300	300	301	301	301	300	299	
インフルエンザ	300	300	300	300	300	300	300	300	301	301	301	300	299	
小児科	196	196	196	196	196	196	196	196	197	197	197	196	195	
眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	
基幹	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	
インフルエンザ	0.01		0.00					0.00	0.00		0.01		0.02	
RSウイルス感染症	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01		0.01	0.02		0.01	0.01	0.01	0.02	
咽頭結膜熱	0.13	0.15	0.15	0.27	0.16	0.22	0.30	0.18	0.28	0.33	0.25	0.22	0.21	
A群溶血性链球菌咽頭炎	0.67	0.62	0.39	0.53	0.38	0.27	0.39	0.38	0.41	0.58	0.60	0.37	0.45	
感染性胃腸炎	2.09	2.13	1.60	1.99	1.73	0.87	1.89	1.95	1.94	2.13	1.95	1.61	1.77	
水痘	0.10	0.07	0.14	0.10	0.12	0.09	0.07	0.07	0.10	0.05	0.10	0.15	0.08	
手足口病	0.07	0.07	0.08	0.08	0.10	0.04	0.09	0.08	0.12	0.09	0.09	0.06	0.07	
伝染性紅斑	0.02	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01			0.01		0.01		0.01	
突発性発しん	0.55	0.57	0.46	0.58	0.46	0.34	0.47	0.48	0.59	0.49	0.45	0.34	0.40	
ヘルパンギーナ	0.11	0.16	0.15	0.20	0.27	0.15	0.23	0.41	0.32	0.47	0.48	0.31	0.48	
流行性耳下腺炎	0.03	0.10	0.05	0.09	0.06	0.06	0.09	0.04	0.08	0.03	0.07	0.06	0.08	
急性出血性結膜炎														
流行性角結膜炎	0.06	0.08	0.10	0.17	0.10		0.17	0.25	0.25	0.25	0.08	0.12	0.10	
細菌性髄膜炎									0.06		0.06			
無菌性髄膜炎		0.06		0.06	0.06		0.06	0.06						
マイコプラズマ肺炎	0.06	0.06		0.13	0.13			0.06		0.06	0.06			
クラミジア肺炎（ワム病を除く）														
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.06											0.06		

I 五類定点把握感染症（性感染症を除く）

4月				5月				6月				
15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週
299	299	299	299	299	299	298	298	299	300	300	300	300
196	196	196	196	196	196	195	195	195	196	196	196	196
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
0.14	0.03	0.01	0.00	0.00	0.01	0.01		0.01		0.00	0.01	0.00
0.14	0.14	0.05			0.02		0.01	0.02	0.01		0.02	0.05
0.11	0.12	0.08	0.05	0.03	0.06	0.05	0.03	0.03	0.08	0.06	0.08	0.15
0.83	0.55	0.42	0.42	0.31	0.36	0.27	0.34	0.37	0.48	0.42	0.60	0.63
1.51	1.24	1.14	1.07	0.63	0.96	1.20	1.21	1.49	1.67	1.92	2.08	2.08
0.13	0.14	0.05	0.10	0.08	0.09	0.07	0.09	0.10	0.08	0.06	0.07	0.11
0.04	0.07	0.04	0.04	0.02	0.07	0.03	0.12	0.08	0.09	0.13	0.08	0.08
0.07	0.07	0.04	0.05	0.03	0.03	0.01	0.04	0.01	0.01	0.02	0.01	
0.32	0.31	0.29	0.28	0.23	0.36	0.34	0.38	0.48	0.61	0.55	0.53	0.53
0.05		0.02	0.03	0.02	0.02	0.05	0.09	0.04	0.03	0.05	0.06	0.10
0.04	0.06	0.04	0.08	0.05	0.06	0.07	0.07	0.05	0.07	0.08	0.06	0.07
				0.02			0.02		0.02	0.02		
0.08	0.12	0.13	0.08	0.06	0.06	0.02	0.12	0.06	0.10	0.08	0.08	0.17
					0.13							0.13
						0.06		0.06	0.06			
0.25	0.06				0.25	0.06			0.06			

10月				11月					12月				平均	
41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	53週		
299	299	299	298	299	299	299	298	298	298	298	298	298	298	299
195	195	195	195	196	196	196	196	196	196	196	196	196	196	196
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
0.01	0.01	0.00	0.01	0.03	0.01	0.01	0.02	0.04	0.01	0.04	0.03	0.02	2.70	
0.01	0.03	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01	0.04	0.05	0.07	0.07	0.07	0.02	0.11	
0.15	0.17	0.19	0.20	0.18	0.23	0.25	0.22	0.25	0.25	0.30	0.26	0.07	0.20	
0.46	0.51	0.58	0.56	0.60	0.55	0.66	0.54	0.72	0.72	0.62	0.60	0.22	0.90	
1.82	1.81	1.92	1.84	1.86	2.01	2.29	2.28	2.24	2.28	2.40	2.77	1.10	2.28	
0.08	0.14	0.11	0.13	0.16	0.24	0.27	0.27	0.35	0.31	0.23	0.19	0.12	0.17	
0.02	0.05	0.02	0.02	0.03	0.02	0.04	0.05	0.03	0.02	0.02	0.02		0.06	
0.01	0.02	0.01	0.01	0.01			0.01	0.02	0.02	0.02	0.03		0.07	
0.44	0.37	0.46	0.37	0.31	0.40	0.40	0.34	0.33	0.38	0.33	0.26	0.12	0.37	
0.38	0.48	0.49	0.39	0.36	0.30	0.28	0.21	0.24	0.11	0.06	0.06	0.03	0.15	
0.06	0.05	0.04	0.05	0.01	0.07	0.05	0.05	0.05	0.04	0.07	0.07	0.03	0.05	
							0.04						0.00	
0.17	0.17	0.12	0.12	0.10	0.19	0.21	0.19	0.15	0.15	0.17	0.04		0.13	
0.06													0.01	
	0.06												0.02	
	0.06										0.06		0.11	
													0.00	
										0.13		0.06	0.01	

2020年 感染症別・ブロック別報告状況（大阪府内集計）

疾病名	ブロック名	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	合計
		豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市北部	大阪市西部	大阪市東部	大阪市南部	
定点数	*1 インフルエンザ	1,802	1,368	2,193	1,615	1,272	1,516	1,749	1,060	772	1,166	1,358	15,871
	*2 小児科	1,166	901	1,398	1,054	848	986	1,060	742	507	795	940	10,397
	*3 眼科	265	212	318	265	212	265	318	265	106	317	212	2,755
	*4 基幹	106	106	106	106	53	106	53	53	53	53	53	848
*1	インフルエンザ	3,915	2,315	6,541	4,832	4,245	4,053	4,440	3,753	3,952	2,049	2,868	42,963
*2	RSウイルス感染症	49	60	145	132	149	64	156	130	99	47	98	1,129
	咽頭結膜熱	126	196	300	323	118	119	310	155	44	142	216	2,049
	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	509	562	1,624	1,170	974	919	1,267	583	416	424	938	9,386
	感染性胃腸炎	1,981	1,780	3,395	3,253	2,876	1,402	2,913	1,600	1,246	892	2,354	23,692
	水痘	155	137	296	230	151	93	205	224	84	125	76	1,776
	手足口病	51	31	116	54	69	55	59	62	17	41	67	622
	伝染性紅斑	38	52	78	75	198	40	84	58	12	67	52	754
	突発性発しん	412	181	587	563	415	174	487	340	163	179	308	3,809
	ヘルパンギーナ	58	143	148	77	220	134	324	109	67	32	242	1,554
	流行性耳下腺炎	22	69	98	44	66	36	58	53	42	38	32	558
*3	急性出血性結膜炎			2	4		3	2					11
	流行性角結膜炎	22	34	60	33	28	30	39	33	15	52	13	359
	合計	3,423	3,245	6,849	5,958	5,264	3,069	5,904	3,347	2,205	2,039	4,396	45,699
*4	細菌性髄膜炎	1	2	2			4				1		10
	無菌性髄膜炎	5	3			1	5				1		15
	マイコプラズマ肺炎	14	20	12	6	1	24	1			15		93
	クラミジア肺炎（オウム病を除く）						1						1
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		1			1	4						6
	合計 {細菌性髄膜炎 - 感染性胃腸炎(ロタウイルス)}	20	26	14	6	3	38	1			17		125
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	104	70	32	41	379	59	56	40	15		46	842
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	7	1			18	8	32					66
	薬剤耐性緑膿菌感染症	2						1					3
	合計 (メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 - 薬剤耐性緑膿菌感染症)	113	71	32	41	397	67	89	40	15		46	911

*1 インフルエンザ定点把握疾患
 *2 小児科定点把握疾患
 *3 眼科定点把握疾患
 *4 基幹定点把握疾患

2020年 感染症別・年齢別報告状況（大阪府内集計）

疾病名	年齢区分																合計		
	6ヶ月未満	12ヶ月未満	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	15歳	20歳	30歳	40歳		50歳	60歳
*1 インフルエンザ	189	661	1,778	1,735	2,063	2,597	3,130	3,438	3,367	3,296	2,885	8,170	1,504	8,150				42,963	
RSウイルス感染症	181	228	343	172	99	41	27	8	9	8	2	8	3				1,129		
咽頭結膜熱	17	173	789	328	231	186	106	72	31	24	11	31	13	37				2,049	
A群溶血性レンガ球菌咽頭炎	9	49	396	718	1,058	1,342	1,262	1,072	816	570	435	941	128	590				9,386	
感染性胃腸炎	326	1,574	3,343	2,387	2,016	1,623	1,532	1,253	1,071	986	887	2,707	801	3,186				23,692	
水痘	18	48	122	106	126	162	226	185	199	162	143	228	21	30				1,776	
*2 手足口病	6	48	196	113	83	62	39	21	12	11	12	16	2	1				622	
伝染性紅斑	1	11	52	63	78	114	124	102	63	55	31	54	6				754		
突発性発しん	43	1,162	2,012	428	106	50	5	1					2				3,809		
ヘルパンギーナ	5	110	555	395	175	105	45	26	11	11	9	12	13	82				1,554	
流行性耳下腺炎	1		11	25	49	69	84	69	59	51	33	71	6	30				558	
*3 急性出血性結膜炎														11				11	
流行性角結膜炎	1	3	4	4	7	6	2	1	5	3		5	12	306				359	
合計	608	3,406	7,823	4,739	4,028	3,760	3,452	2,810	2,276	1,881	1,563	4,073	996	4,284				45,699	
*4 細菌性髄膜炎	1			1					1		1	1						5	10
無菌性髄膜炎											1	2	1		1	5	3	2	15
マイコプラズマ肺炎			6	6	5	7	8	9	8	6	3	19	2	3	3	3		5	93
クラミジア肺炎（わん病を除く）					1														1
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1				1	1				1	1	1							6
合計 {細菌性髄膜炎 - 感染性胃腸炎(ロタウイルス)}	2		6	7	7	8	8	9	9	7	6	23	3	3	4	8	3	12	125
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	28	4	7	4	3	7	2	5	9	1	2	14	12	20	28	49	53	594	842
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	2	23	5	4	2	1	1					2	2			1	22	66
薬剤耐性緑膿菌感染症																	2	1	3
合計 (メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 - 薬剤耐性アシネトバクター 感染症)	29	6	30	9	7	9	3	6	9	1	2	14	14	22	28	49	56	617	911

*1 インフルエンザ定点把握疾患
 *2 小児科定点把握疾患
 *3 眼科定点把握疾患
 *4 基幹定点把握疾患

2. 各感染症状況報告

1) インフルエンザ定点把握疾患

●インフルエンザ

令和 2 年（2020 年）のインフルエンザの患者発生は、第 35 週までは 2019/2020 シーズンを、第 36 週以降は 2020/2021 シーズンが反映されている。令和 2 年の大阪府でのインフルエンザ定点からの累積報告数は 42,961（定点あたり累積報告数：143.68）であり、定点あたり累積報告数の全国平均値（114.27）は上回ったものの、前年の大阪府の累積報告数：88,386（定点あたり累積報告数：293.64）よりも大幅な減少がみられた。定点あたり報告数の週別の推移をみると、大阪府、全国平均値ともに 2020 年の第 4 週（大阪府：21.12、全国平均：18.02）であり、その後は急激に減少し、第 16 週以降はどちらも 0.05 を下回った状態が 2020 年第 53 週まで続いている（図）。そしてこの状況は 2021 年に入っても（2021 年第 25 週現在）継続されている。

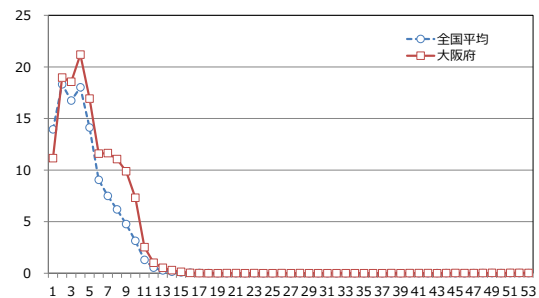


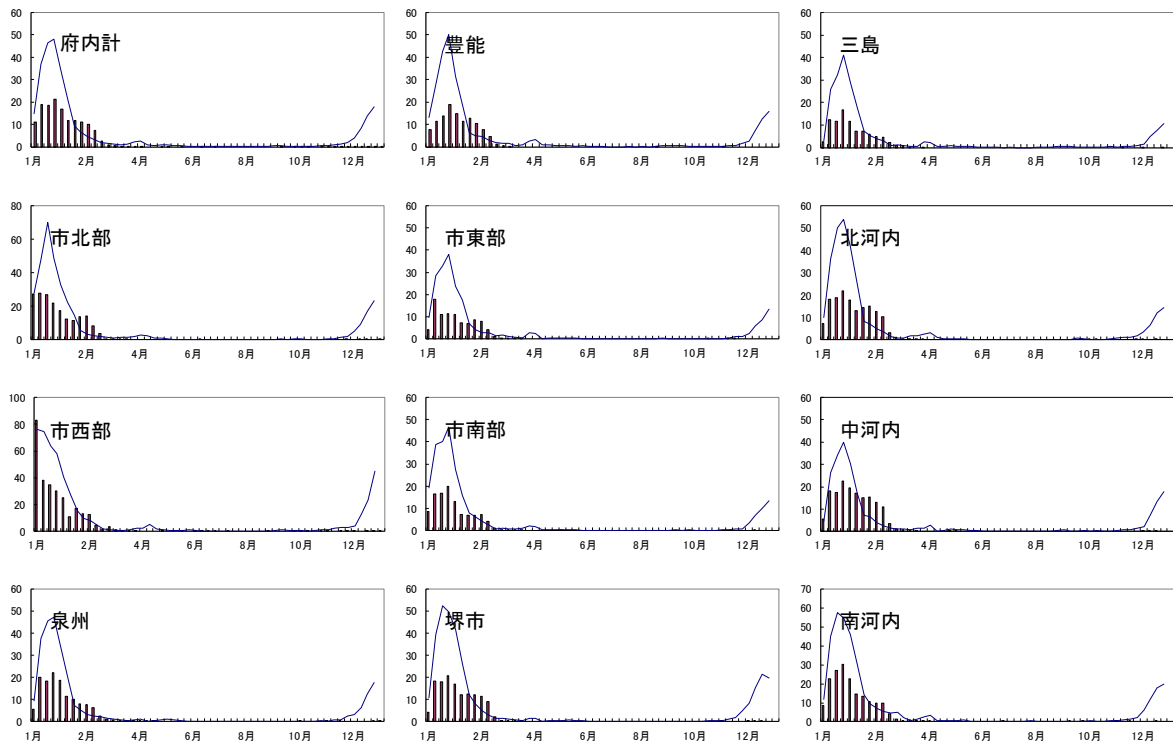
図 2020 年のインフルエンザ定点あたり報告数週別推移
(全国平均、大阪府)

2020 年の国内のインフルエンザウイルス株の検出状況を見ると、(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html>) 総検出数は 2,710 株であり、内訳をみると AH1pdm09 2,009 株 (74.1%)、AH3 亜型 42 株 (1.5%)、B ビクトリア系統 653 株 (24.1%)、B 山形系統 2 株 (0.1%)、B 系統不明 4 株 (0.1%) であった。総検出数 2,710 株中、2019/2020 年シーズン（2020 年第 35 週まで）中に検出されたのは 2,708 株であり、2020/2021 年シーズン（2020 年第 36 週以降）に検出されたのは 2 株であった。一方、大阪府は総検出数 191 株であり、AH1pdm09 109 株 (57.1%)、AH3 亜型 2 株 (1.0%)、B ビクトリア系統 79 株 (41.1%)、B 山形系統 0 株 (0.0%)、B 系統不明 1 株 (0.5%) であった。この 191 株は全て 2019/2020 年シーズン（2020 年第 35 週まで）中に検出されたものであり、2020/2021 年シーズン（2020 年第 36 週以降）に検出されたものは無かった。

2019/2020 年シーズンのインフルエンザの発生動向は、例年よりも流行の立ち上がりが早く 2019 年も 11 月中には定点あたり報告数は大阪府、全国平均値ともに流行開始基準を超え、12 月中には患者報告数の急激な立ち上がりがみられていたが、2020 年 1 月に入るとその増加速度は例年と比べて鈍いものとなり、第 4 週を超えてからは急激な減少がみられ、結果的には例年と比べて流行のピーク、流行の規模ともに例年と比べてかなり小さいシーズンとなった。この原因としては、2019 年末から中国を起点として発生し、その後短期間に世界中に流行が拡大し、現在も継続している新型コロナウイルス感染症の流行の影響が大きかったものと推定される。2020/2021 年シーズンに至ってはインフルエンザの国内の流行はほぼみられなかったと言っても過言ではない。しかしながら現在の状況は新型コロナウイルス感染症流行の影響によるものであり、この影響が小さくなれば再びインフルエンザの流行も復活してくる可能性があり、今後もインフルエンザに対する注意深いサーベイランスは継続していくべきであると思われる。
(文責：安井)

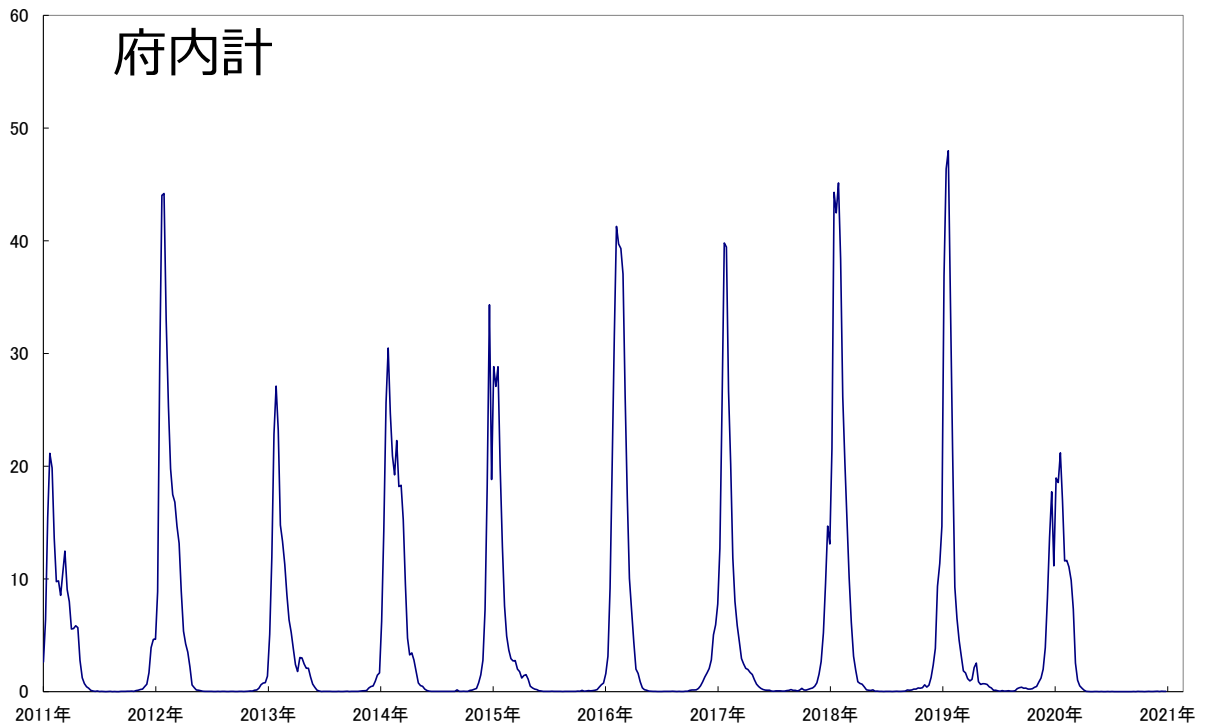
インフルエンザ

線 (2019年第1週～第52週)
棒 (2020年第1週～第53週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線 (2011年1週～2020年53週)



定点あたりインフルエンザ報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

2) 小児科定点把握疾患

●RS ウイルス感染症

2020 年の RS ウイルス感染症の患者報告数は 1,129 例で、前年比 91.0%減、小児科・眼科定点把握疾患総報告数の 2.5%を占めた。定点あたり報告数の年平均は 0.11 で、順位は第 8 位であった。

全国集計においては 18,097 例の報告で、前年比 87.1%減、小児科・眼科定点把握疾患総報告数の 2.1%を占めた。定点あたり報告数の年平均は 0.11 で、順位は第 10 位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数は、第 1 週（1 月）の 0.21 に始まり第 2 週（1 月）から第 5 週（1 月）まで 0.47 前後で推移した後漸減し第 18 週（4 月）から第 47 週（11 月）の間は 0.03 以下で推移し、報告なしの週も散見された。第 48 週（11 月）から第 52 週（12 月）にかけては 0.07 程度に達する軽度な増加が認められた。年間を通しての最大は第 2 週（1 月）と第 5 週（1 月）の 0.49 であった。

全国集計の同報告数は、第 1 週（1 月）の 0.22 に始まり第 11 週（3 月）までは 0.2 を超えていたが第 5 週（1 月）に年間最高の 0.35 となった後は漸減し、第 15 週（4 月）から第 40 週（9 月）までは 0.1 未満で推移し、第 21 週（5 月）には年間最低の 0.00（実報告件数 13 件）となった。第 41 週（10 月）から第 52 週（12 月）にかけては軽度な増加が見られ 0.10-0.14 で推移した。

年齢別患者発生数は、1 歳児の 343 例が最も多く、以下 12 か月未満児の 228 例、6 か月未満児の 181 例、2 歳児の 172 例で、0 歳児から 2 歳児で全体の 81.8%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位 5 ブロックは⑦泉州(156 例)、⑤南河内(149 例)、③北河内(145 例)、④中河内(132 例)、⑧大阪市北部(130 例)であった。

ブロック別定点あたり年間平均報告数の上位 5 ブロックは⑨大阪市西部(0.20)、⑤南河内・⑧大阪市北部(0.18)、⑦泉州(0.15)、④中河内(0.12)であった。

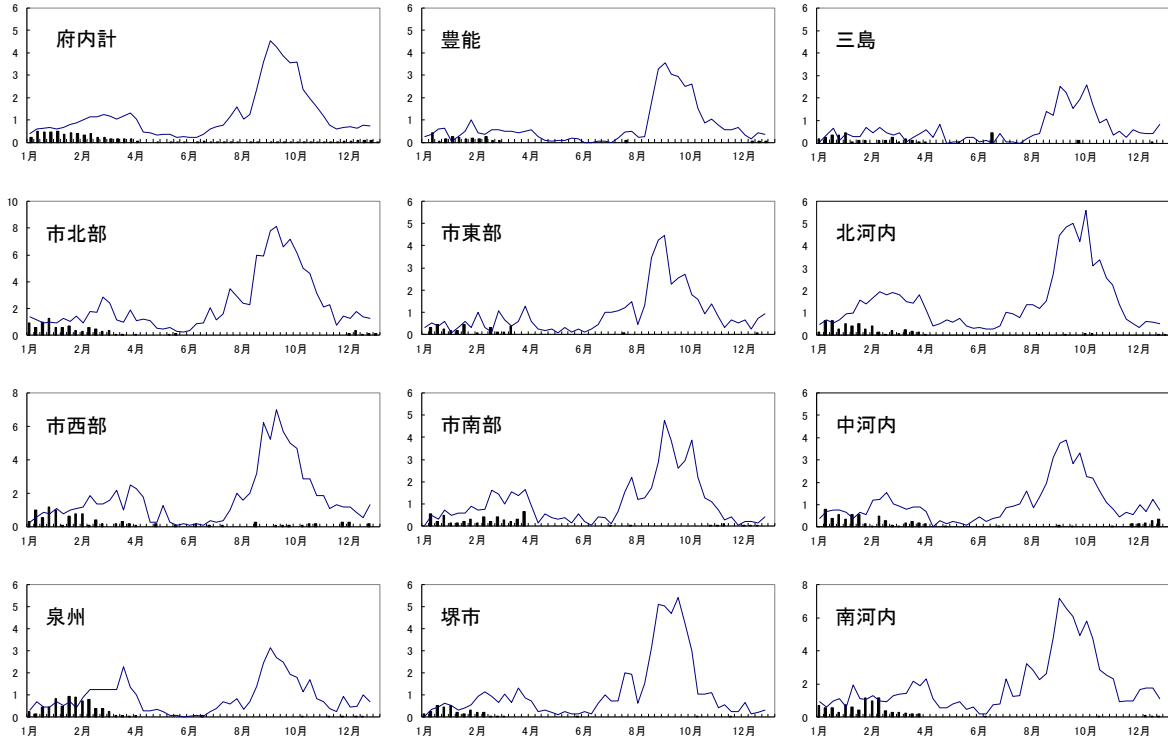
病原体定点医療機関からの検体数は 58 件で、そのうち 18 検体(31.0%)からウイルスが検出され、RSA が 10 例であった。その他にライノウイルスが 5 例、アデノウイルス 1 型、アデノウイルス 5 型、コクサッキー A4 型がそれぞれ 1 例であった。

(文責：山本)

RS ウイルス感染症

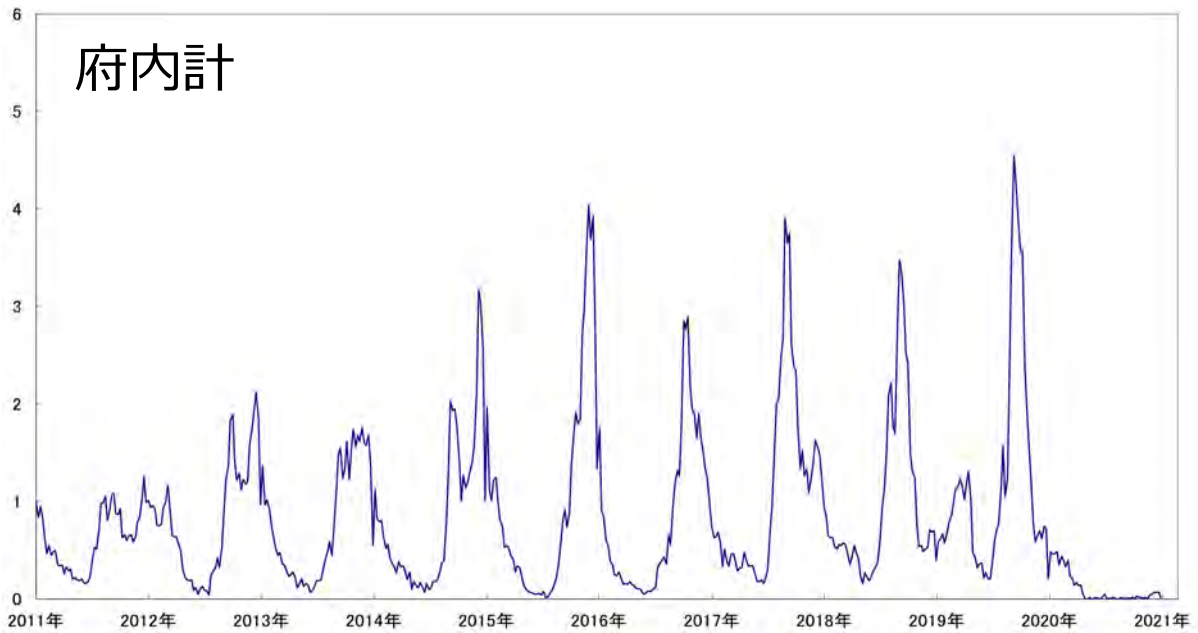
線 (2019 年第 1 週～第 52 週)

棒 (2020 年第 1 週～第 53 週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線 (2011 年 1 週～2020 年 53 週)



定点あたり RS ウイルス感染症報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●咽頭結膜熱

2020 年の咽頭結膜熱の患者報告数は 2,049 例で、前年比 60.3%減、小児科・眼科定点把握疾患総報告数の 4.5%を占めた。定点あたり報告数の年平均は 0.20 で、順位は第 4 位であった。

全国集計においては 35,123 例の報告で、前年比 53.4%減、小児科・眼科定点把握疾患層報告数の 4.1%を占めた。定点あたり報告数の年平均は 0.21 で、順位は第 5 位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数は、第 1 週（1 月）の 0.06 に始まり第 6 週（2 月）に年間最高の 0.47 となった後漸減し第 16 週（4 月）までは 0.10 を超えて推移した。第 17 週（4 月）から第 26 週（6 月）の間は 0.10 以下で推移し、第 27 週（6 月）以降は増減を伴い第 37 週（9 月）に 0.33、51 週（12 月）に 0.30 のピークを形成しながら 0.13-0.33 程度で推移した。

全国集計の同報告数は、第 1 週（1 月）の 0.22 に始まり第 2 週（1 月）に年間最高の 0.52 となった後漸減し第 13 週（3 月）までは 0.20 を超えていた。第 14 週（3 月）から 45 週（11 月）までは 0.2 以下で推移したが、第 46 週以降漸増し第 51 週（12 月）・第 52 週（12 月）には 0.31 となった。

年齢別患者発生数は、1 歳児の 789 例が最も多く、以下 2 歳児の 328 例、3 歳児の 231 例、4 歳児の 186 例、12 カ月未満児の 173 例で、0 歳児から 5 歳児で全体の 89.3%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位 5 ブロックは④中河内(323 例)、⑦泉州(310 例)、③北河内(300 例)、⑪大阪市南部(216 例)、②三島(196 例)であった。

ブロック別定点あたり年間平均報告数の上位 5 ブロックは④中河内(0.31)、⑦泉州(0.29)、⑪大阪市南部(0.23)、②三島(0.22)、③北河内・⑧大阪市北部(0.21)、であった。

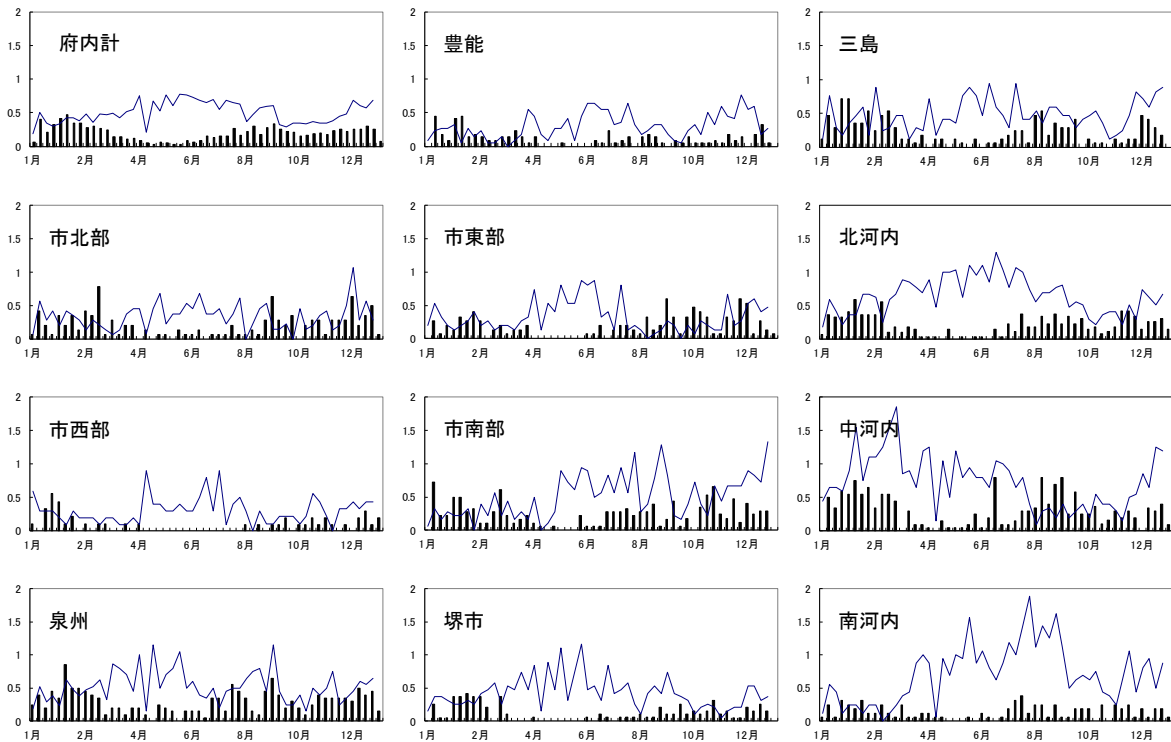
病原体定点医療機関からの検体数は 29 件で、そのうち 17 検体(58.6%)からウイルスが検出された。内訳はアデノウイルス 2 型が 9 例、アデノウイルス 3 型が 2 例、ライノウイルスが 2 例、以下アデノウイルス 1 型・アデノウイルス 5 型・ヒトメタニューモウイルス・パラインフルエンザウイルス 1 型(RS ウイルス B 型との重複感染 1 例を含む)がそれぞれ 1 例であった。

(文責：山本)

咽頭結膜熱

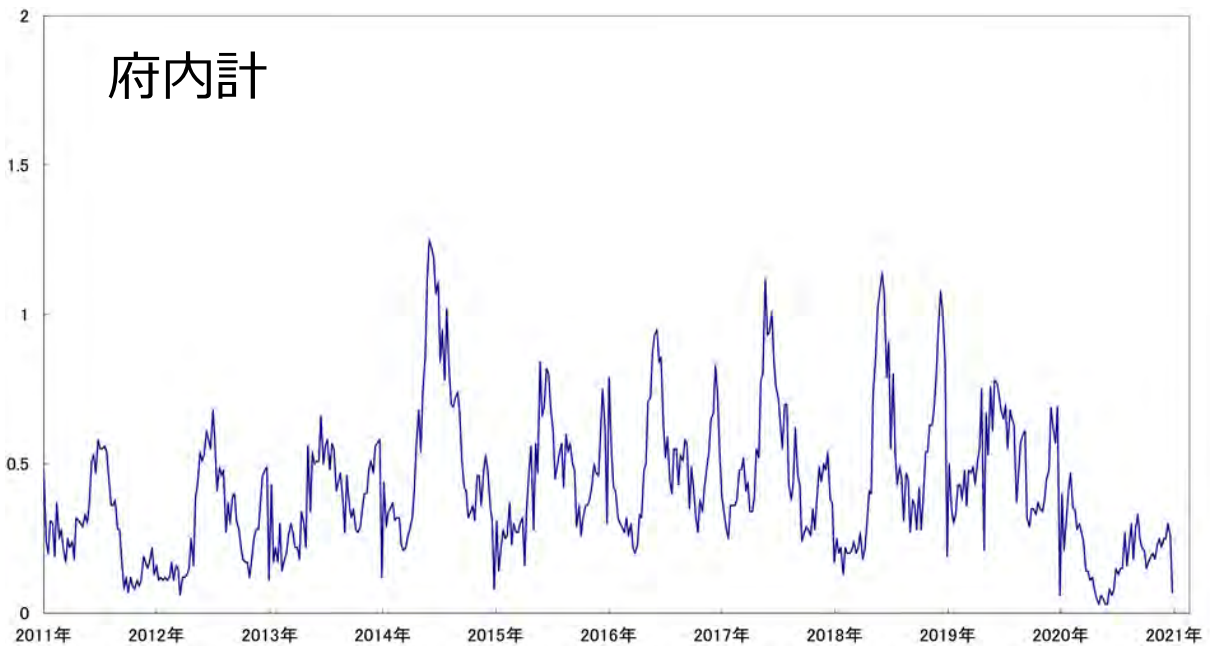
線（2019年第1週～第52週）

棒（2020年第1週～第53週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2011年1週～2020年53週）



定点あたり咽頭結膜熱報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2020年のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数は9,386例で、前年比58.3%減、総報告数(小児科・眼科定点報告対象疾患)の20.5%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は0.90で、順位は第2位であった。

全国集計では200,223例の報告で、前年比43.6%減、総報告数(小児科・眼科定点報告対象疾患)の23.6%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は1.20で、順位は第2位であった。

週別(月別)の定点あたりの報告数の推移では、第1週(1月)0.41で始まり、第2週(1月)から増加し、第5週(1月)に年間最高値3.16となった。その後減少傾向となり、第15週(4月)以降第53週(12月)まで1未満が続いた。例年にみられた初夏と冬のピークは認められなかった。

全国集計では、第1週(1月)0.74で始まり、第2週(1月)から増加傾向となり、第8週(2月)に年間最高値3.67となった。その後減少し、第17週(4月)以降第53週(12月)まで1未満が続いた。全国でも初夏と冬のピークは認められなかった。

年齢別患者報告数は、4歳の1,342例が最も多く、以下5歳1,262例、6歳1,072例、3歳1,058例と続き、3歳から6歳で全体の50.4%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位5ブロックは、③北河内(1,624例)、⑦泉州(1,267例)、④中河内(1,170例)、⑤南河内(974例)、⑪大阪市南部(938例)の順であった。

ブロック別定点あたりの年平均報告数の上位5ブロックは、⑦泉州(1.20)、③北河内(1.15)、⑤南河内(1.15)、④中河内(1.11)、⑪大阪市南部(0.99)の順であった。

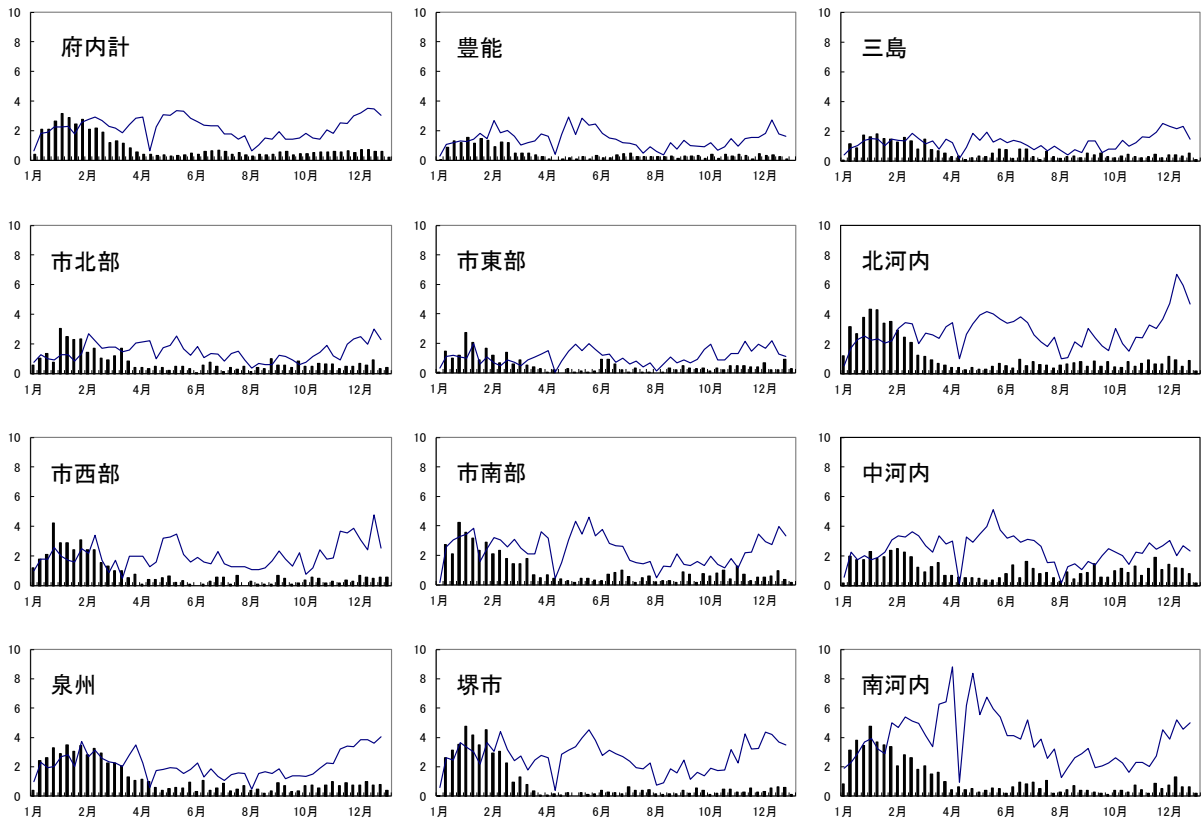
ブロック別・週別定点あたりの報告数の上位5ブロックは、⑤南河内(第5週、4.75)、⑥堺市(第5週、4.74)、⑥堺市(第8週、4.53)、③北河内(第5週、4.33)、③北河内(第6週、4.30)の順であった。

(文責：富吉)

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

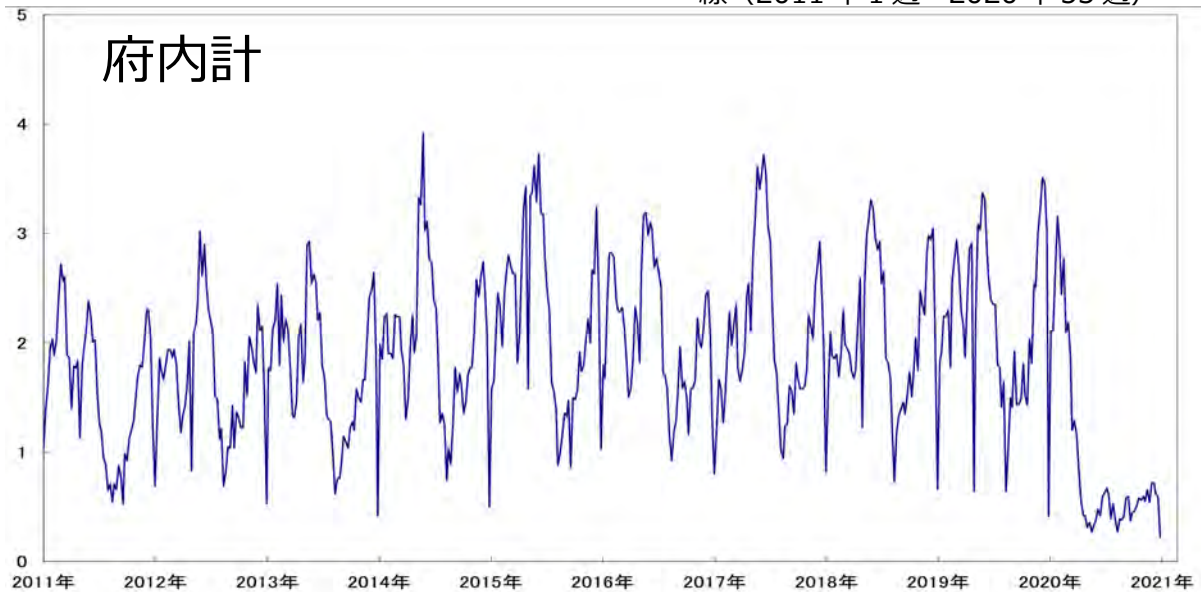
線（2019年第1週～第52週）

棒（2020年第1週～第53週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2011年1週～2020年53週）



定点あたり A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●感染性胃腸炎

2020年の感染性胃腸炎の報告数は23,692例で、前年より31,682例、57.2%減少した。小児科・眼科定点報告対象12疾患総報告数の51.8%を占め、第1位であった。定点あたり報告数の年平均は2.28で、前年5.39より57.7%の減少であり、過去10年でみると最低値であった。全国集計では報告数420,039例で、前年より48.1%減少し、総報告数の49.4%を占めた。定点あたり報告数は年平均2.51と前年4.92より49.0%減少し、過去10年で最低値であった。

定点あたり報告数を週別にみると、第1週1.60から第2週5.72へと急激に増加し、第5週に年間最高値5.74に達した。その後は第8週の5.06から減少に転じて、第19週に年間最低値である0.63になった。第19週以降は緩やかに増加し第29週2.13に達した後減少に転じ、第33週に0.87となった。第34週1.89から第45週1.86まではほぼ横ばいで推移し、その後第52週2.77まで増加し、第53週1.10となった。全国集計では、第1週1.79から急激に増加し、第4週に年間最高値7.15に達した。その後減少に転じ、第19週に年間最低値である0.74となった。それ以降第29週2.26まで徐々に増加し、第30週から第44週まで1.10~2.13の間で推移した。第44週1.74から増加傾向となり第52週3.17に達した後第53週1.44となった。

定点あたり報告数の月別平均値は、1月、2月、3月、12月、11月、7月の順で高かった。例年であれば春から初夏にかけて二峰性のピークを作り、夏から秋にかけて低値をとり、晩秋から増加し始め冬にピークを持つ流行曲線となるが、2020年は1月にピークを作った後例年になく低値を取り続け、秋から冬にかけてのピークを作らない特異な流行曲線を示した。

ブロック別定点あたり報告数のピーク値が警報開始基準値20.0を超えたブロックは無かった。ブロック別定点あたり報告数の年平均は、⑤南河内 3.39、④中河内 3.08、⑦泉州 2.75、⑪大阪市南部 2.51、⑨大阪市西部 2.49、③北河内 2.42、⑧大阪市北部 2.16、②三島 1.98、①豊能 1.70、⑥堺市 1.41、⑩大阪市東部 1.12の順であった。

年齢別報告数(0~9歳)は、1歳、2歳、3歳、0歳、4歳、5歳、6歳、7歳、8歳、9歳の順に多かった。0~4歳の報告数は11,269例で全体の47.6%を占めた。5~9歳が5,729例(24.2%)、10~14歳が2,707例(11.4%)、15歳以上が3,987例(16.8%)で、各年齢の全体に占める割合は例年と較べて9歳以下が減少し、10歳以上が増加した。

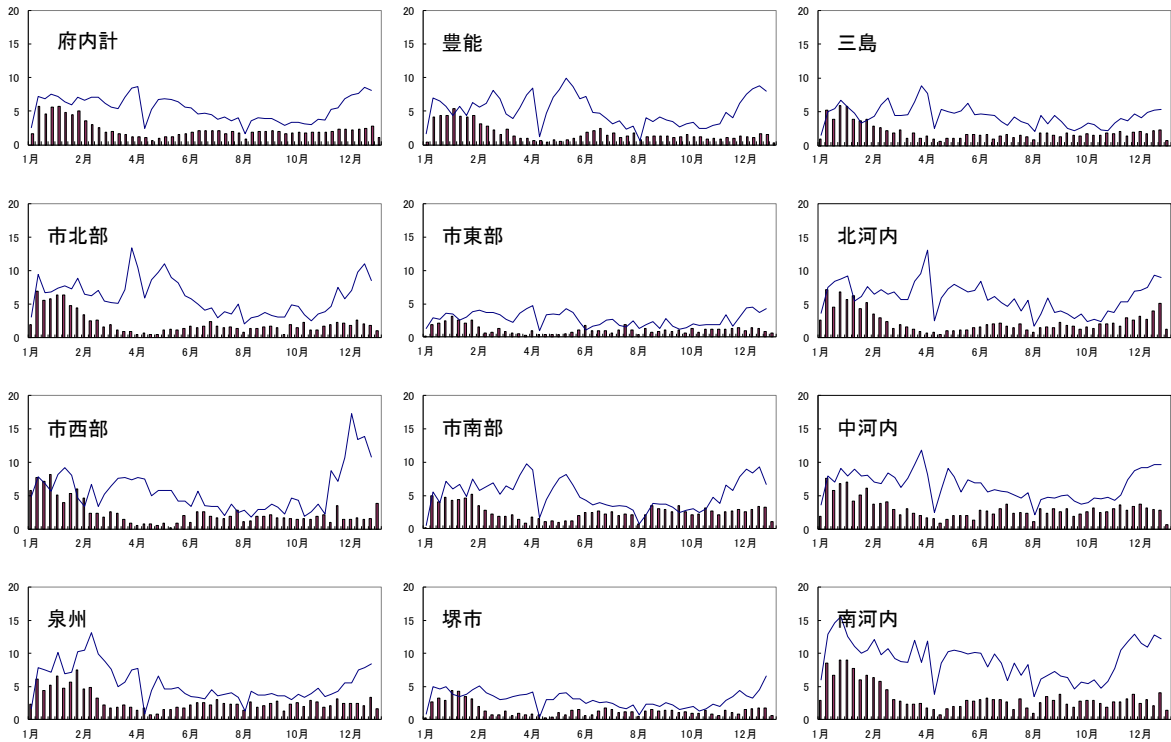
ウイルス検出は73検体のうち陽性だったのは32検体で、陽性率43.8%であった。病原体別でみると、ノロウイルス24件(陽性検体の75.0%、うちノロウイルスGII.4が16件)、アデノウイルスが4件(陽性検体の12.5%)、アストロウイルス4件(陽性検体の12.5%)等であった。

(文責：吉田)

感染性胃腸炎

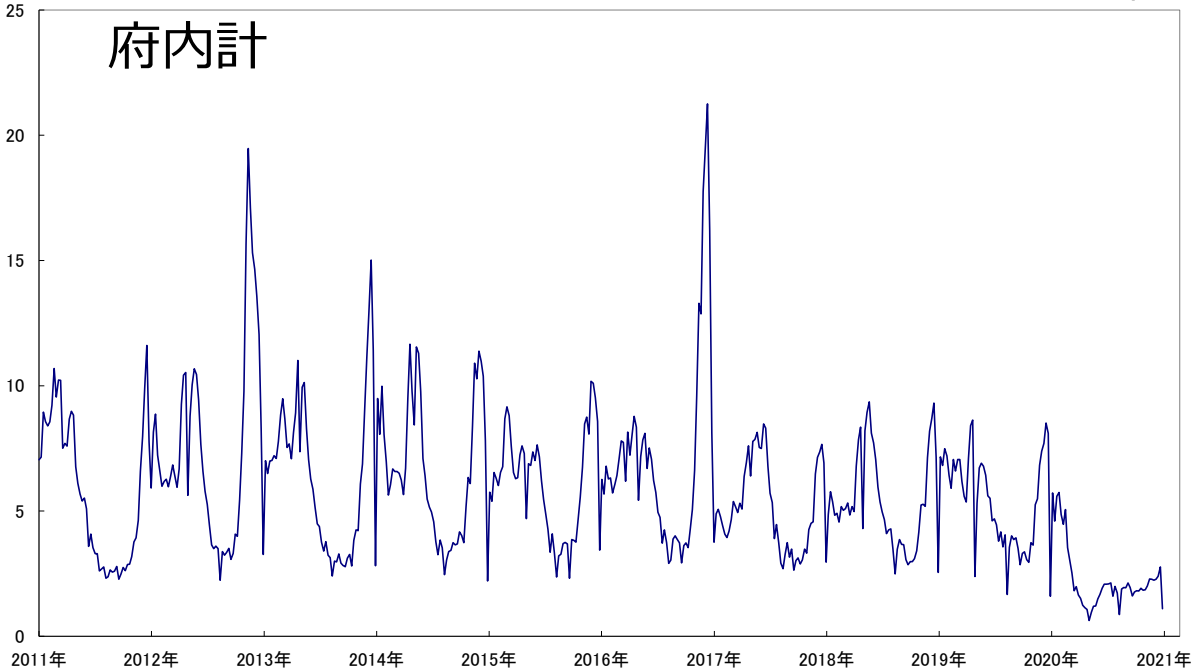
線（2019年第1週～第52週）

棒（2020年第1週～第53週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2011年1週～2020年53週）



定点あたり感染性胃腸炎報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●水痘

2020年の水痘の報告数は1,776例で、前年3,227例より1,451例、45.0%減少した。小児科・眼科定点報告対象12疾患総報告数の3.9%を占め、第5位であった。2008年～2010年は第2～3位であったが、2011年～2014年は第3～4位、2015年は第5位であり、2016年以降は8～9位と年々減少していた。定点あたり報告数の年平均は0.17で、前年0.31より45.2%減少した。全国集計では報告数31,768例で前年56,798例より25,030例、44.1%減少した。総報告数の3.7%を占め、定点あたり報告数は年平均0.19と前年0.35より45.7%減少した。

定点あたり報告数を週別にみると、第1週0.20から第2週に年間最高値である0.54まで増加した後、増減を繰り返しながら減少し、第17週に年間最低値である0.05に達した。その後0.05～0.15の間で小刻みな増減を繰り返し、第41週0.08より再び増加し、第49週に0.35に達した。その後減少に転じ、第53週0.12となった。全国集計では、第1週0.32から第2週に年間最高値である0.65まで増加した後、増減を繰り返しながら減少し、第19週に年間最低値である0.07に達した。0.08～0.12の間で小刻みな増減を繰り返した後、第35週0.09から緩やかに増加し、第47週に0.23に達した後減少に転じ、第53週0.10となった。

定点あたり報告数の月別平均値は、1月、2月、11月、3月、12月、10月、4月、7月、9月、8月、6月、5月の順で高かった。例年とは違い、ピークは冬のみであり、初夏から秋にかけて低値をとる流行曲線であった。定点あたり報告数の年平均および年間最高値は、いずれも前年よりも低値であり、感染症法が施行され現在の感染症発生動向調査事業の体制となった1999年以降の22年間で最も低値であった。

ブロック別定点あたり報告数の年平均は、⑧大阪市北部 0.30、④中河内 0.22、③北河内 0.21、⑦泉州 0.19、⑤南河内 0.18、⑨大阪市西部 0.17、⑩大阪市東部 0.16、②三島 0.15①豊能 0.13、⑥堺市 0.09、⑪大阪市南部 0.08、の順であった。

年齢別報告数(0～9歳)は、5歳、7歳、6歳、4歳および8歳、9歳、3歳、1歳、2歳、0歳の順に多かった。0～4歳の報告数および全体に占める割合は、2014年(6,691例、68.4%)、2015年(3,179例、57.4%)、2016年(2,044例、48.0%)、2017年(1,706例、42.3%)、2018年(1,346例、34.3%)、2019年(1,065例、33.0%)、2020年(582例、32.8%)であり、2014年10月に水痘ワクチンが小児の定期接種に導入されて以降、報告数・割合とも大幅に減少している。5～9歳の報告数は915例(前年1,693例)で全体の51.5%(前年52.5%)と減少した。10～14歳の報告数は228例(前年410例)と減少し、割合は12.8%(前年12.7%)で前年と著変なかった。15歳以上は51例(2.9%)であり、割合は前年1.8%よりやや増加した。

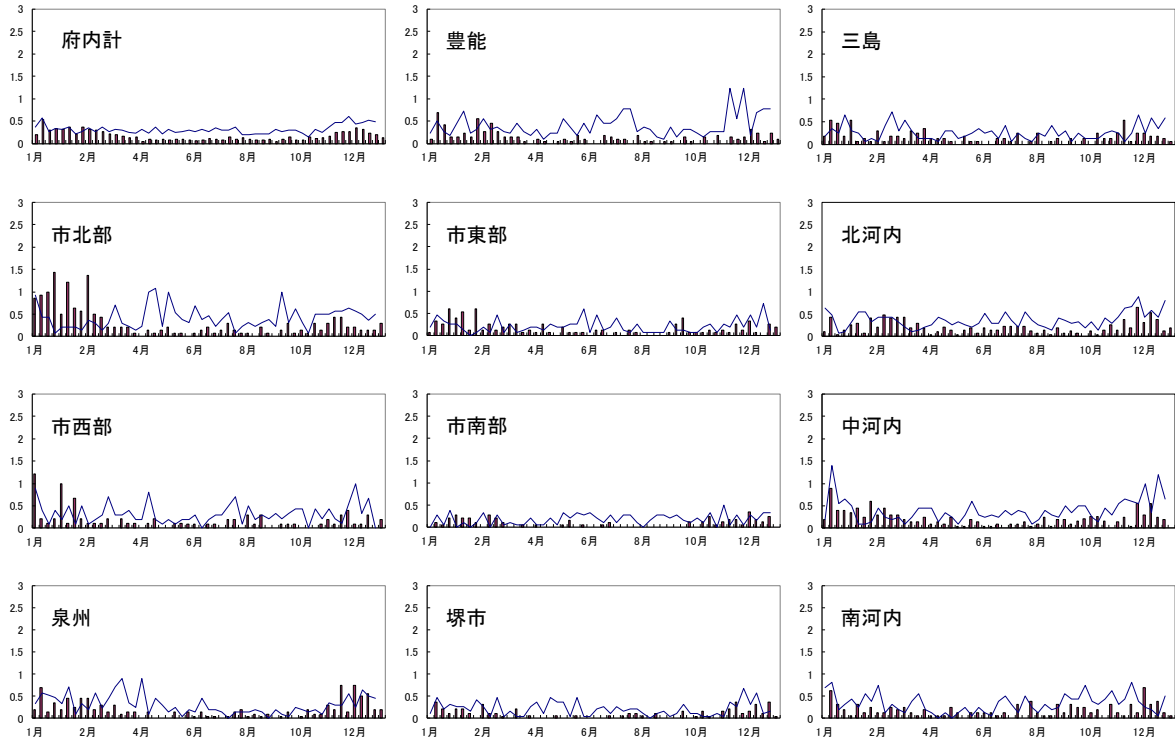
咽頭拭い液6検体中3件から水痘带状疱疹ウイルスが検出された。

(文責：吉田)

水痘

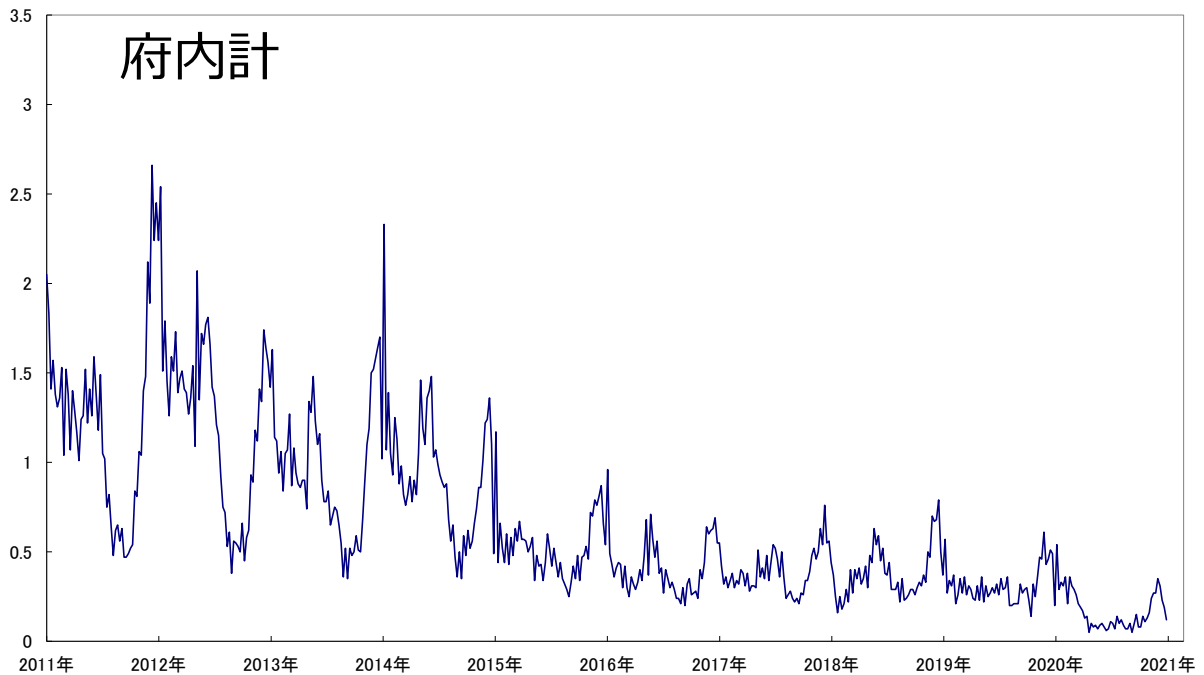
線（2019年第1週～第52週）

棒（2020年第1週～第53週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2011年1週～2020年53週）



定点あたり水痘報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●手足口病

手足口病 (hand, foot, and mouth disease : HFMD) は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス性感染症であり、乳幼児を中心に主に夏季に流行する疾患である。日本国内では主に春から夏にかけて流行する感染症であり、例年 7 月の中旬か下旬が流行のピークとなり、8 月以降患者発生数は減少していく、という経過を辿っている。主な病原ウイルスは、以前はコクサッキー A16 (CA16)、エンテロウイルス 71 (EV71) であるとされてきたが、2009 年頃よりコクサッキー A6 (CA6) を原因ウイルスとする手足口病が目立つようになり、それとともに CA6 の検出割合が増加してきている。

手足口病に特徴的な発疹は口腔粘膜、従来は手掌、足底や足背などの四肢末端に出現する 2~3 mm の水疱性発疹とされてきたが、CA6 を原因ウイルスとする手足口病の場合の発疹は 5mm 前後と水痘を想起させるほどに大きく、上腿、殿部、上腕部、頸部等広範囲にみられることも少なくない。また、これまでの手足口病とは異なり、39℃以上の高熱をきたすこともしばしば認められている。

2020 年 (令和 2 年) の小児科定点医療機関からの手足口病の累積報告数は、大阪府は 622 (定点あたり累積報告数 3.17 ; 暫定値) であり、国内全体では 18,632 (定点あたり累積報告数 5.83 ; 暫定値) と共に 2004 年以降では最も低い値だった。2020 年は大阪府、国内全体共に夏期に流行のピークは認められず、どちらも第 2 週の定点あたり報告数 (大阪府 0.16、国内 0.20) が年間を通して最高値であり、流行期間というものが年間を通してみられなかった (図)。

2020 年に全国で手足口病と診断された患者由来検体から検出されたウイルス株数 (暫定値) は、全国で 71 と患者数の減少を反映して過去 10 年間で最も少ない値であり、CA16 57.7%、CA10 2.8% の順であり、前年には 56.8% と最多を占めた CA6 は、EV71 と共に 0.0% で検出されなかった。大阪府内で検出されたウイルス株数は 4 と前年の 68 よりも大幅に減少し、コクサッキー A4 (CA4) が 50.0% と半数を占めていた。

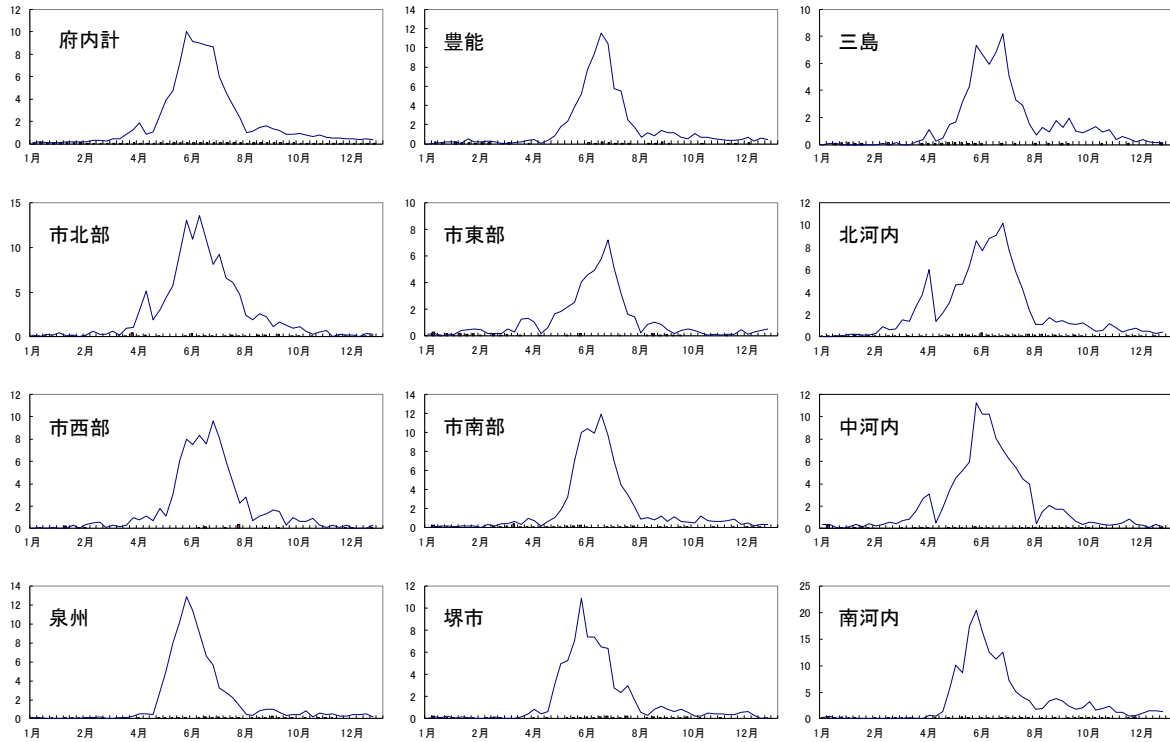
2020 年の手足口病の患者数が例年と比べて大きく減少し、流行期間と呼べるものが見られなくなり、原因ウイルスとされるエンテロウイルスの検出数も例年と比べて大きく減少したのは、新型コロナウイルス感染症の流行の影響に負うところが大きいと思われる。この「影響」が異なるウイルス間の干渉によるものか、あるいは新型コロナウイルス感染症に対する対策の徹底によるのか等、その理由は今のところ不明であるが、新型コロナウイルス感染症の影響が小さくなれば、手足口病の国内流行も復活してくる可能性が高いと思われる。

(文責 : 安井)

手足口病

線 (2019年第1週～第52週)

棒 (2020年第1週～第53週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

(2004年1週～2020年53週)

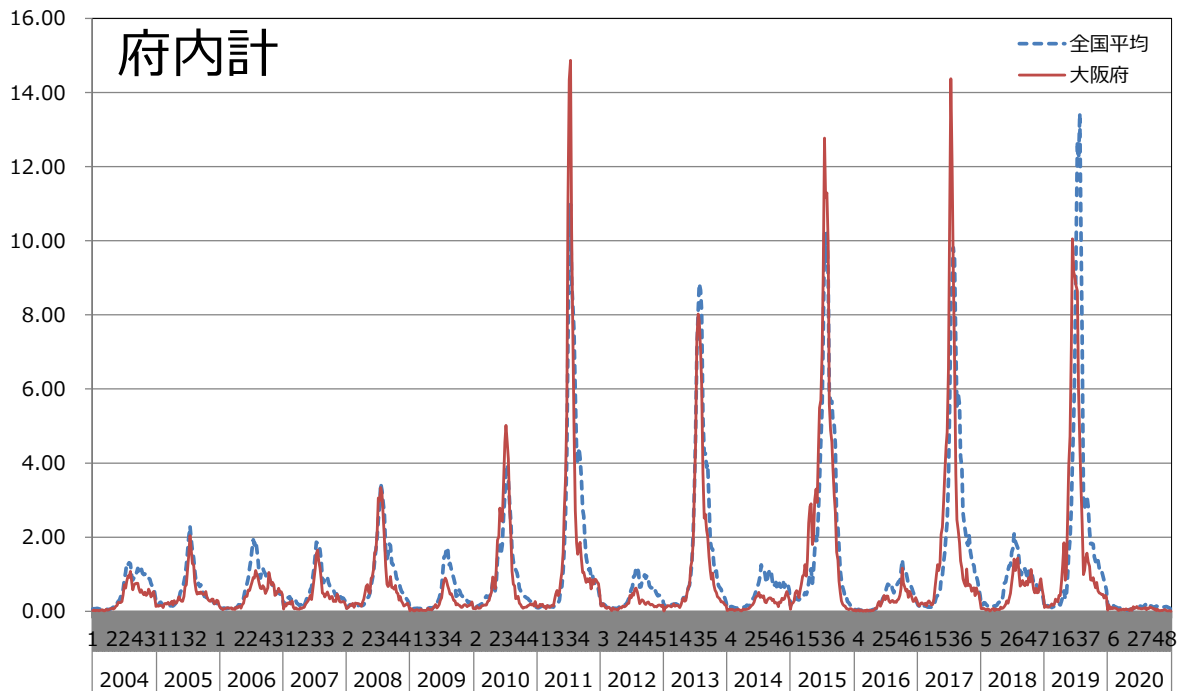


図 2004年～2020年の手足口病定点あたり報告数の週別推移（全国平均、大阪府）

2004年～2020年定点あたり手足口病報告数（全国平均、府内計）の週別推移

●伝染性紅斑

2020 年の伝染性紅斑の報告数は 754 例で、前年の 6,840 例より 6,086 例、89.0%減少した。小児科・眼科定点報告対象 12 疾患総報告数の 1.6%を占め、第 8 位であった。定点あたり報告数の年平均は 0.07 で、前年 0.67 より 89.6%の減少であった。全国集計では報告数 18,247 例で前年 108,223 例より 83.1%減少し、総報告数の 2.1%を占めた。定点あたり報告数は年平均 0.11 と前年 0.66 より 83.3%減少した。

定点あたり報告数を週別にみると、第 1 週 0.10 から第 2 週に年間最高値である 0.52 に達した後、第 21 週の 0.01 まで減少し、その後は第 53 週まで 0.00~0.04 の間で推移した。全国集計では、第 1 週 0.17 から第 2 週に年間最高値である 0.63 に達した後、第 25 週 0.02 まで減少し、その後は第 53 週まで 0.01~0.02 の間で推移した。

定点あたり報告数の月別平均値は、1 月、2 月、3 月、4 月、5 月、12 月、7 月、6・10 月、8・11 月、9 月の順で多かった。春から夏にかけて増加する例年の流行曲線とは異なり、1 月にピークを作った後急速に減少し、春以降は例年になく低いレベルで推移した。

過去 10 年では、2011 年、2015 年、2019 年とおよそ 4 年毎に比較的大規模な流行がおこっている。2019 年の年間最高値 1.30 は過去 10 年間でも最高値であったが、本年は大流行と大流行の間の時期の比較的小さな流行に留まっている。

ブロック別定点あたり報告数の年平均は、⑤南河内 0.23、⑩大阪市東部 0.08、⑦泉州 0.08、⑧大阪市北部 0.08、④中河内 0.07、②三島 0.06、⑪大阪市南部 0.50、③北河内 0.05、⑥堺市 0.04、①豊能 0.03、⑨大阪市西部 0.03 の順であった。

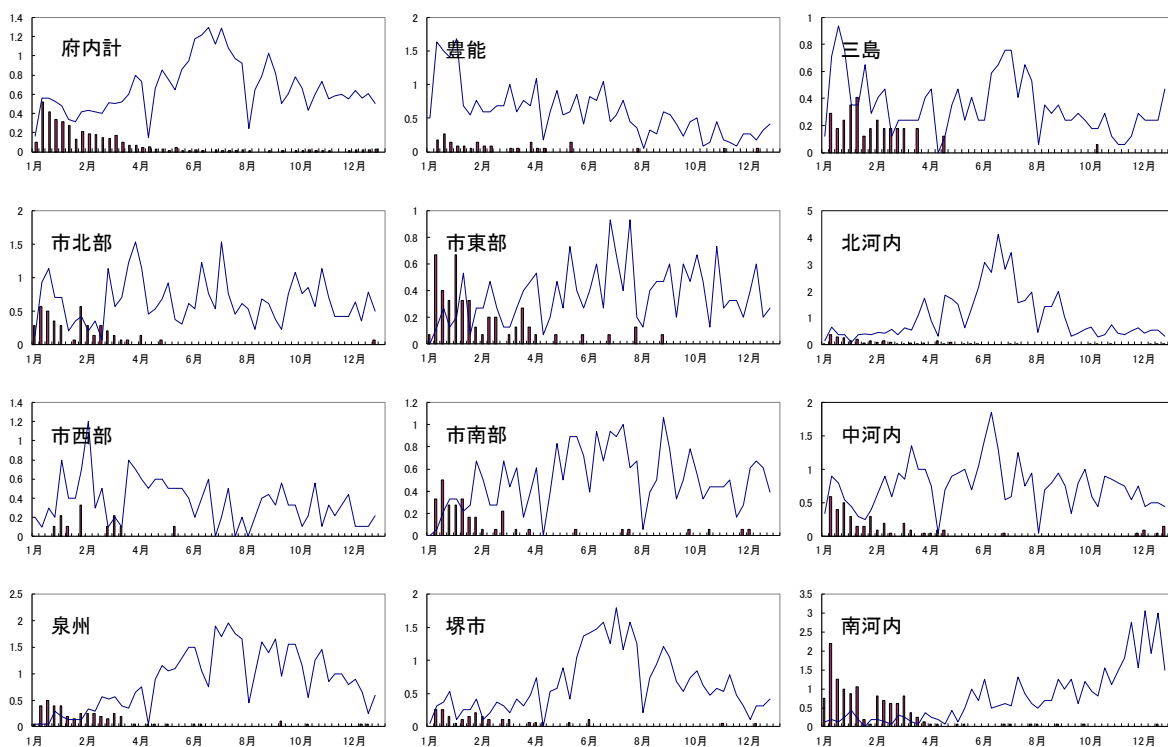
年齢別報告数（0~9 歳）は、5 歳、4 歳、6 歳、3 歳、2 歳・7 歳、8 歳、1 歳、9 歳、0 歳の順に多かった。5~9 歳の報告数は 375 例で全体の 49.7%を占めた。0~4 歳、10~14 歳、15 歳以上の報告数と割合はそれぞれ 319 例（42.3%）、54 例（7.2%）、6 例（0.8%）であった。

（文責：吉田）

伝染性紅斑

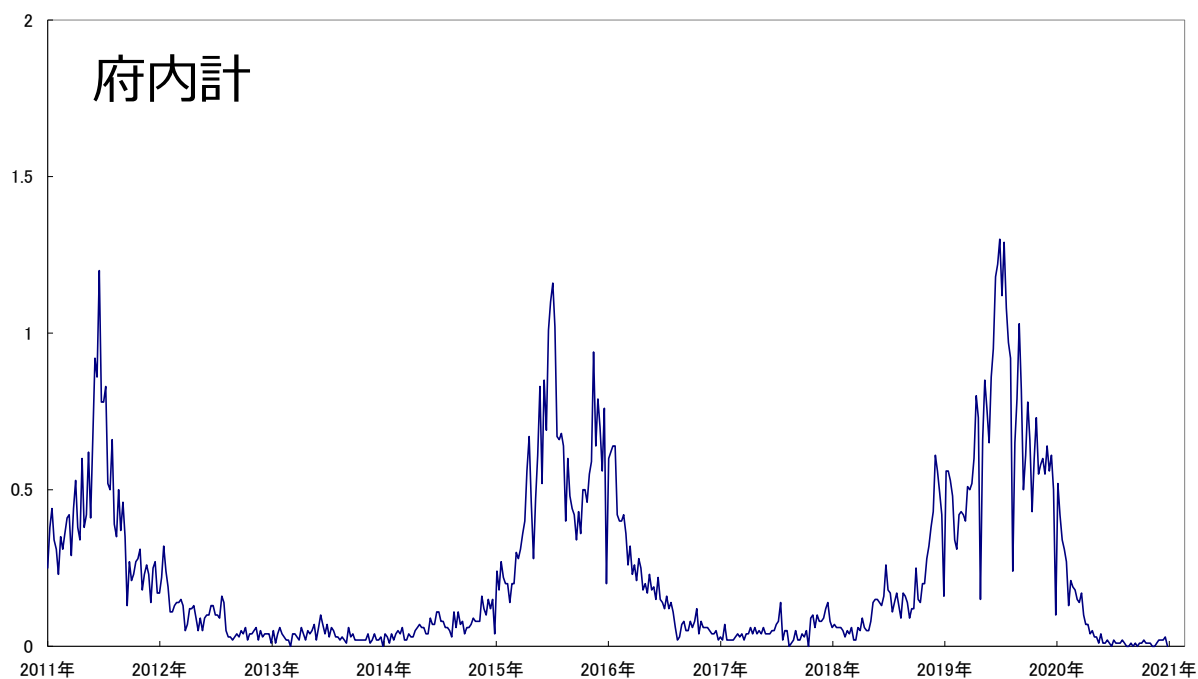
線（2019年第1週～第52週）

棒（2020年第1週～第53週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2011年1週～2020年53週）



定点あたり伝染性紅斑報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●突発性発しん

2020年の突発性発しんの患者報告数は3,809例で、前年比1.5%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の8.3%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は0.37で、順位は第3位であった。

全国集計では65,537例の報告で、前年比1.6%増、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の7.7%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は0.39で、順位は第3位であった。

月別（週別）の定点あたりの報告数の推移では、1月（第1週～第5週）の平均は0.23で、その後漸増して、6月（第23週～第27週）および7月（第28週～第31週）の平均はともに0.54と最高となった。その後漸減して、12月（第50週～第53週）の平均は0.27であった。年間最低値は第1週（1月）の0.06、年間最高値は第24週（6月）の0.61であった。

全国集計では、1月（第1週～第5週）の平均は0.27で、その後漸増して、6月（第23週～第27週）の平均は0.56と最高となった。その後漸減して、12月（第50週～第53週）の平均は0.33であった。年間最低値は第1週（1月）の0.10、年間最高値は第25週（6月）の0.58であった。

本疾患は、季節性がなく、毎週の定点あたり報告数が一定しているといわれているが、春から夏にかけて多くなり、秋から冬にかけて少なくなる傾向がみられた。有意差検定は行なっていないが、定点あたりの報告数の多い6月と少ない1月で約2倍の差があった。

年齢別患者報告数は、1歳の2,012例（52.8%）が最も多く、0歳が1,205例（31.6%）、2歳が428例（11.2%）であり、0歳と1歳で全体の84.5%、2歳を含めると95.7%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位5ブロックは、③北河内（587例）、④中河内（563例）、⑦泉州（487例）、⑤南河内（415例）、①豊能（412例）の順であった。

ブロック別定点あたりの年平均報告数の上位5ブロックは、④中河内（0.53）、⑤南河内（0.49）、⑦泉州（0.46）、⑧大阪市北部（0.46）、③北河内（0.42）の順、下位5ブロックは、⑥堺市（0.18）、②三島（0.20）、⑩大阪市東部（0.23）、⑨大阪市西部（0.32）⑪大阪市南部（0.33）の順で、本年も昨年と同様に最上位と最下位では約2倍以上の差があった。

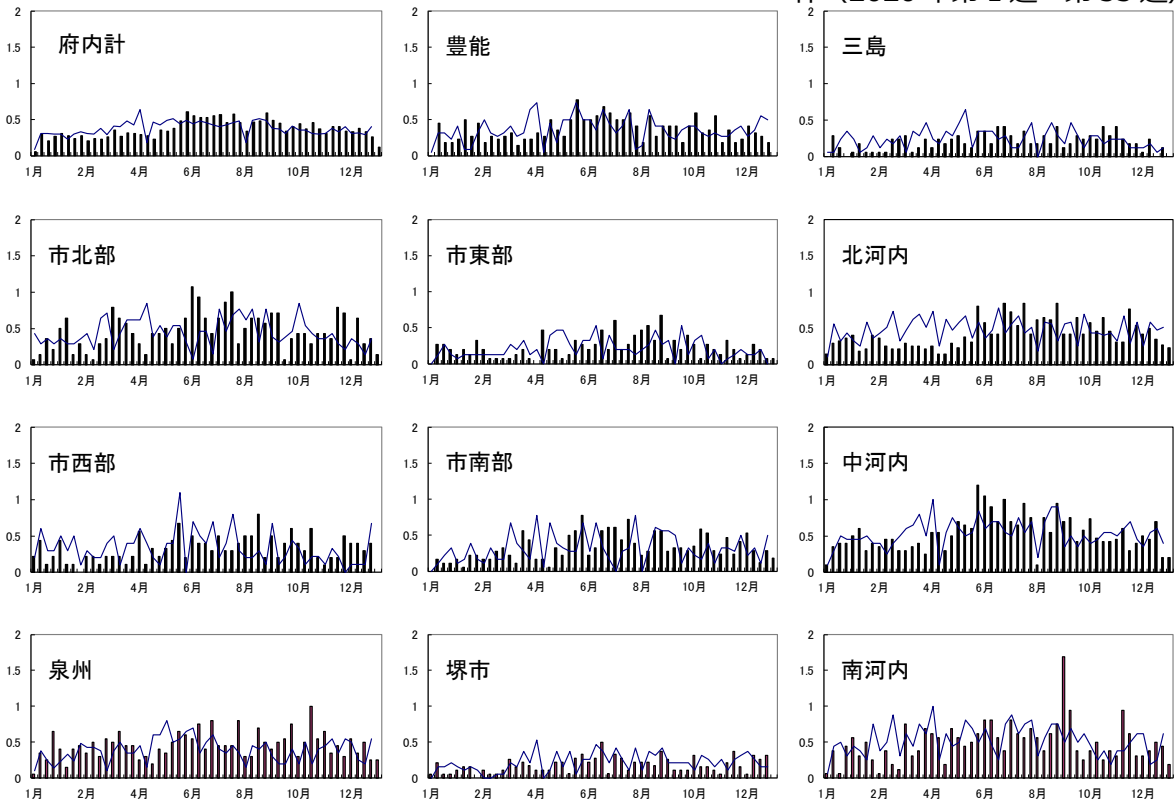
本疾患の特性としてブロック間の差が比較的生じにくいと考えられているが、例年上位と下位では差があり、定点医療機関における受診患者年齢に偏りがどうかどうかなど検討が必要と考えられる。

（文責：富吉）

突発性発しん

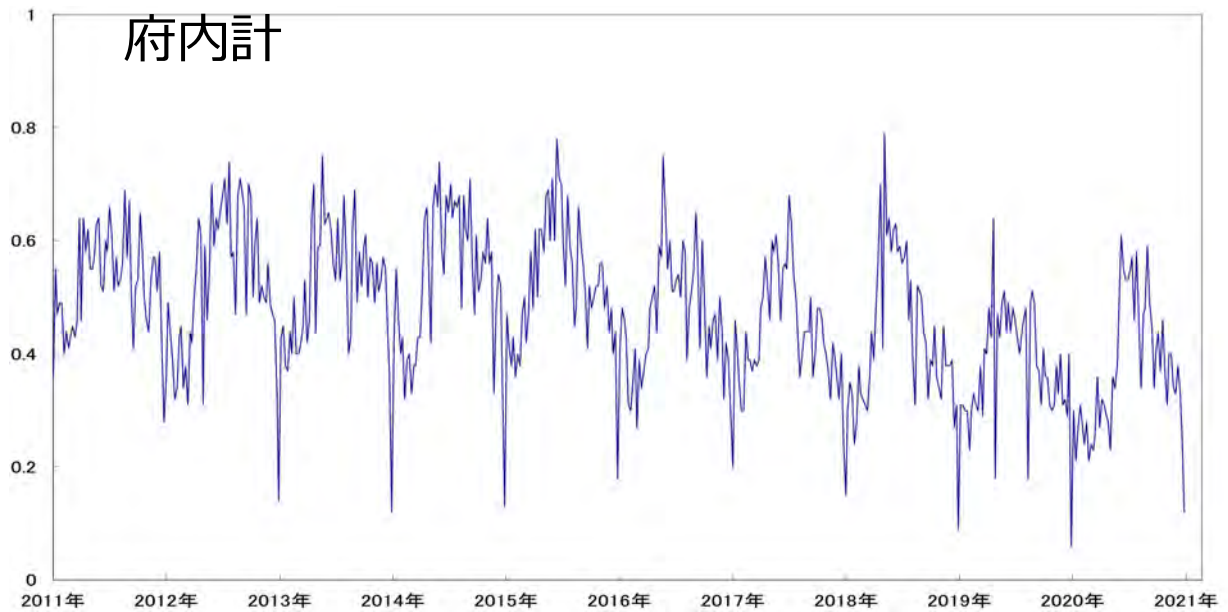
線（2019年第1週～第52週）

棒（2020年第1週～第53週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2011年1週～2020年53週）



定点あたり突発性発しん報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナは、定点あたり報告数が、7 月末にピークを迎える夏型感染症である。大阪府では、2014 年 (9,704 例)、2016 年 (8,563 例) と隔年で流行したが、2017 年以降、大規模な流行はなく、報告数に変動がみられない。2017 年は 4,967 例、2018 年は 5,293 例、2019 年は 5,756 例と横ばい傾向が続き、流行の周期がずれてきている可能性がある。

2020 年の報告数は 1,554 例で前年比 70.0%減と著明に減少で、小児科定点総報告数の 3.4%を占めた。大阪府における小児科定点あたり報告数の年平均は 0.15 で、順位は 7 位であった。日本全国における小児科定点あたり報告数の年平均は 0.15 で、順位は 8 位である。

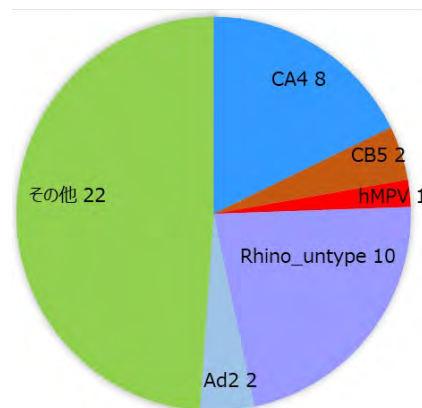
週別 (月別) の定点あたり報告数の推移では、第 1 週から第 26 週 (6 月第 4 週) まで 0.1 未満で推移しており、第 27 週以降、0.10 となり増加に転じていた。第 43 週 (10 月第 3 週) に 0.49 となり最大値に到達した。大阪では、毎年、7 月に最大値に到達するが、2020 年は、新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式による行動変容のためか、10 月に最大値に達している。その後、第 51 週 (12 月第 2 週) には 1.00 を下まわった。

全国的には、大阪とほぼ同じように、第 25 週 (6 月第 3 週) まで 0.1 未満で推移していたが、第 26 週以降、0.14 となり増加に転じていた。第 32 週 (8 月第 1 週) に最大値 0.72 となっている。その後、減少し、第 51 週 (12 月第 2 週) には 1.00 を下まわった。大阪と同様に、1.0 を超えることはなかった。

年齢別患者発生数では、多い順に、1 歳 555 例 (29.2%)、2 歳 395 例 (20.0%)、3 歳 175 例 (13.4%)、0 歳 115 例 (12.0%)、4 歳 105 例 (8.5%) の順で、0~4 歳で全体の 86.6%を占めた。

ブロック別患者発生数では、定点あたりのブロック別年平均報告数の上位 5 ブロックは、⑦泉州 0.31、⑪大阪市 南部・⑤南河内 0.26、②三島 0.16、⑧大阪市 北部 0.15、の順であった。ブロック別・週別定点あたり報告数の上位 5 ブロックは、⑦泉州 第 35 週 1.60 (8 月 4 週)、⑪大阪市 南部 第 44 週 1.53 (10 月 4 週)、⑤南河内 第 41 週 1.38 (10 月 1 週)、⑧大阪市 北部 第 42 週 1.14 (10 月 2 週)、⑦泉州 第 37 週 1.11 (9 月 1 週)、の順で、警報レベル開始基準値 6.00 を上回ったブロックはなかった。

病原体検出の陽性率は 46.7%であった。コクサッキーウイルス A4 型(CA4) (8)、コクサッキーウイルス B5 型(CB5) (2)、ヒトメタニューモウイルス(hMPV) (1)、ライノウイルス (Rhino_unttype) (10)、アデノウイルス 2 型(Ad2) (2)などが検出された。



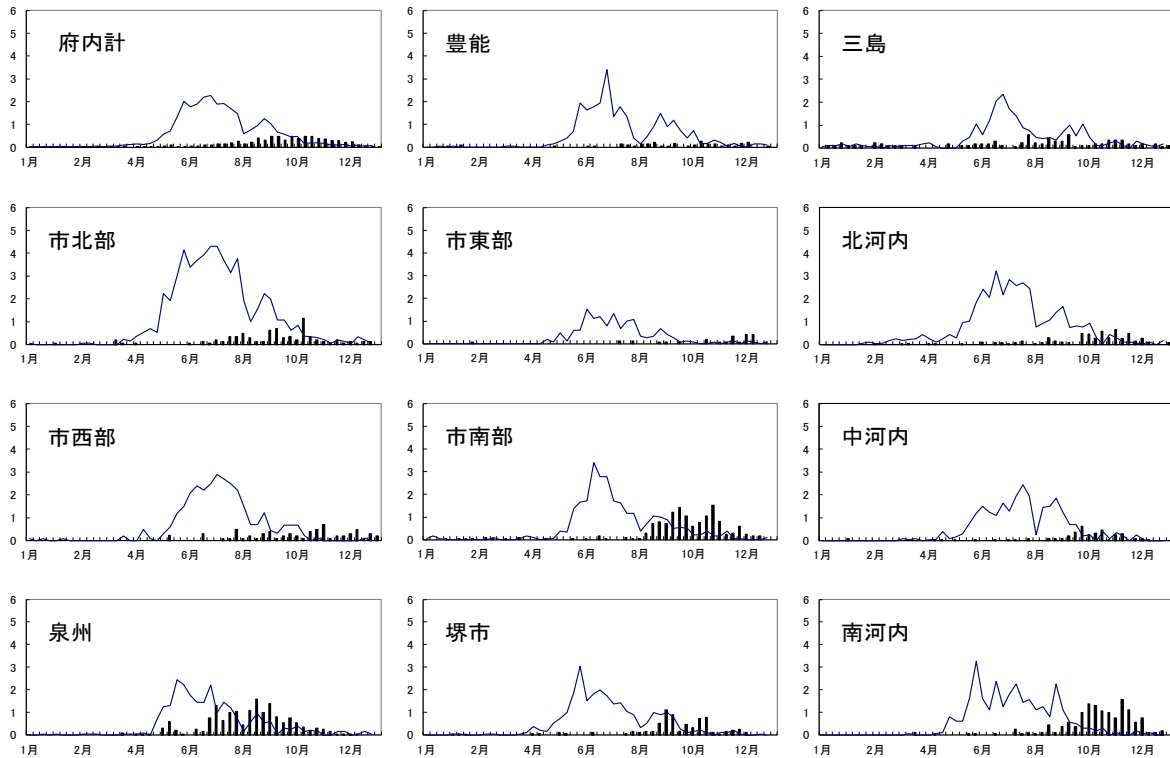
大阪府のヘルパンギーナ患者由来ウイルスの検出状況 (2020 年、総検出数(45))

(文責：本村)

ヘルパンギーナ

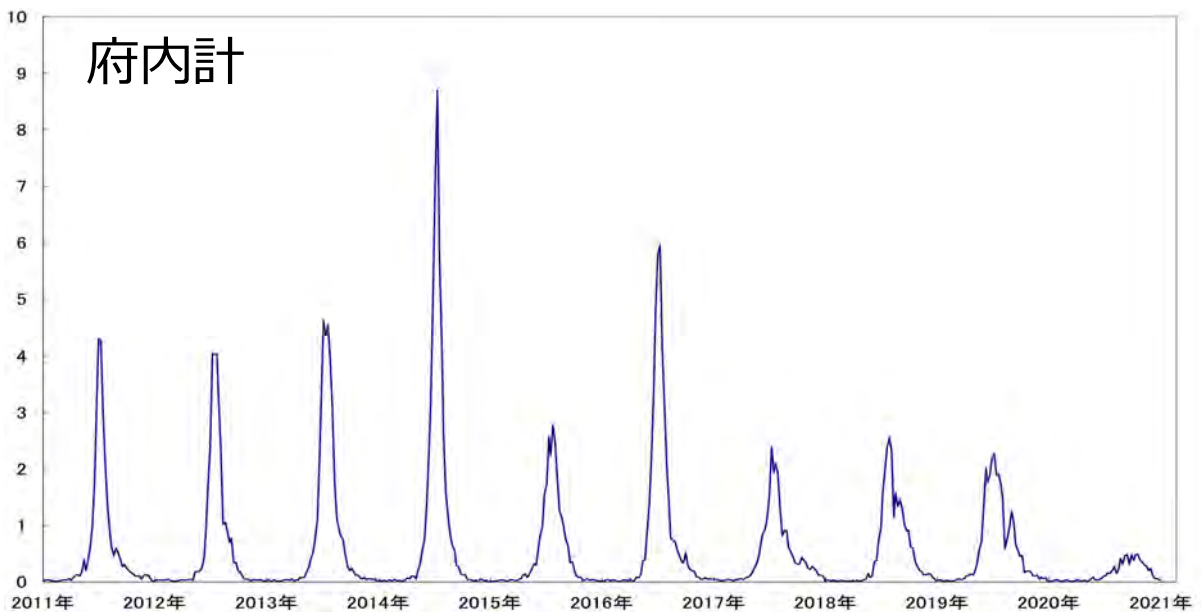
線（2019年第1週～第52週）

棒（2020年第1週～第53週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2011年1週～2020年53週）



定点あたりヘルパンギーナ報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●流行性耳下腺炎

2020 年の流行性耳下腺炎の患者報告数は 558 例で、前年比 33.3%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 1.2%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.05 で、順位は第 11 位であった。過去 10 年間で最も大きな流行となった 2016（平成 28）年から 4 年連続して減少した。

全国集計では 8,073 例の報告で、前年比 46.7%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 0.9%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.05 で、順位は第 11 位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数の推移では、年間を通じて流行はみられず、年間最高値は第 29 週（7 月）の 0.10、年間最低値は第 1 週（1 月）、第 45 週（11 月）の 0.01 であった。

全国集計でも、年間を通じて流行はみられず、年間最高値は第 2 週（1 月）、第 4 週（1 月）、第 24 週（6 月）～第 29 週（7 月）、第 31 週（7 月）、第 34 週（8 月）、第 37 週（9 月）、第 38 週（9 月）の 0.06、年間最低値は第 53 週（12 月）の 0.01 であった。

年齢別患者報告数は、5 歳の 84 例が最も多く、以下 10 歳から 14 歳 71 例、4 歳、6 歳ともに 69 例、7 歳 59 例、8 歳 51 例と続き、3 歳から 6 歳で全体の 48.6%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位 5 ブロックは、③北河内（98 例）、②三島（69 例）、⑤南河内（66 例）、⑦泉州（58 例）、⑧大阪市北部（53 例）の順であった。

ブロック別定点あたりの年平均報告数の上位 5 ブロックは、⑨大阪市西部（0.08）、⑤南河内（0.08）、②三島（0.08）、③北河内（0.07）、⑧大阪市北部（0.07）の順であった。

ブロック別・週別定点あたりの報告数の上位 5 ブロックは、⑨大阪市西部（第 12 週、0.44）、⑧大阪市北部（第 36 週、0.36）、⑨大阪市西部（第 7 週、0.33）、⑤南河内（第 27 週、0.31）、②三島（第 29 週、0.29）の順であった。

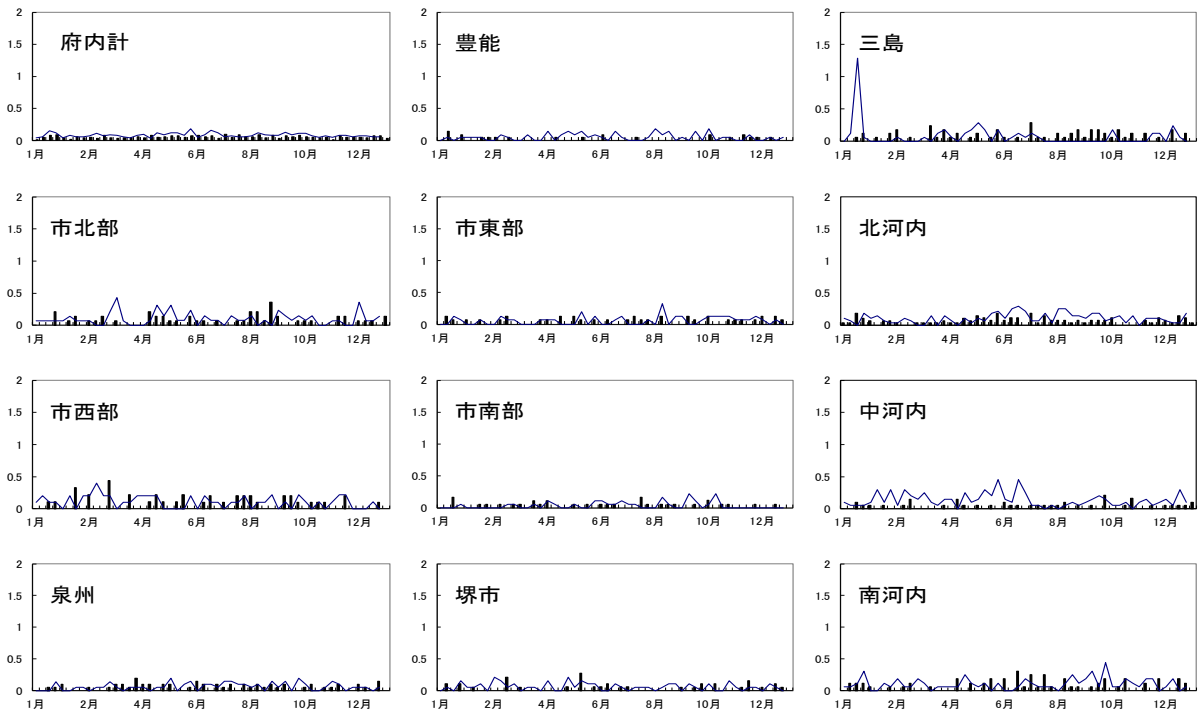
病原体定点医療機関からのウイルス検体の提出は 6 検体あったが、陽性検体はなかった。

（文責：富吉）

流行性耳下腺炎

線（2019年第1週～第52週）

棒（2020年第1週～第53週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2011年1週～2020年53週）



定点あたり流行性耳下腺炎報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

3) 眼科定点把握疾患

●急性出血性結膜炎

2020 年（令和 2 年）の急性出血性結膜炎の報告数は、11 例で前年より 10 例減少し、一定点眼科医療機関あたり 0.00 であった。

週別発生状況では、府内合計で定点あたり最高が、第 2 週と第 48 週の 0.04（2 例）で、第 3 週、第 4 週、第 14 週、第 19 週、第 22 週、第 24 週、第 25 週の 0.02(1 例)が続いた。報告の無い週が 44 週あった。

年間平均ブロック別で定点あたり高かったのは、④中河内の 0.02 で、以下③北河内、⑥堺市、⑦泉州の 0.01 と続いた。他の 7 ブロックからの報告はなかった。

年齢別では、本疾患も流行性角結膜炎と同様に例年成人の発生が多く、20 歳以上の報告数が 11 例と、全体の 100.0%を占めた。

最近 6 年間の一眼科定点あたりの急性出血性結膜炎発生例件数

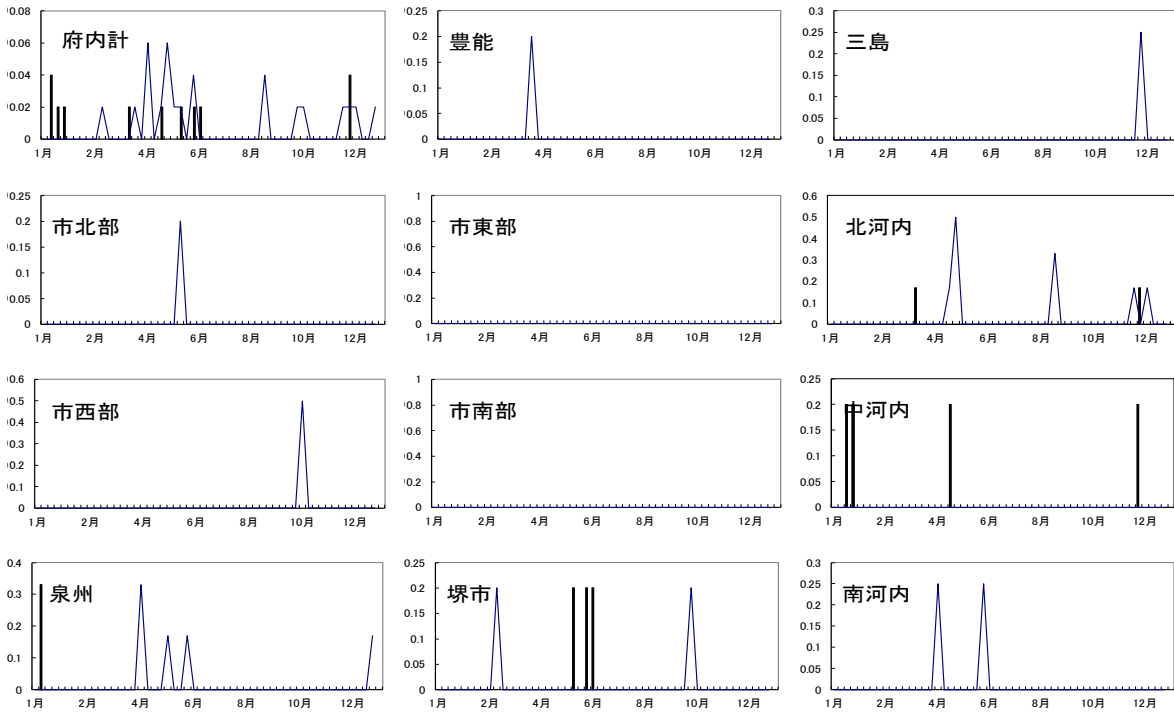
	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年
大阪府	0.02	0.01	0.02	0.02	0.01	0.00
全 国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00

（文責 宮浦）

急性出血性結膜炎

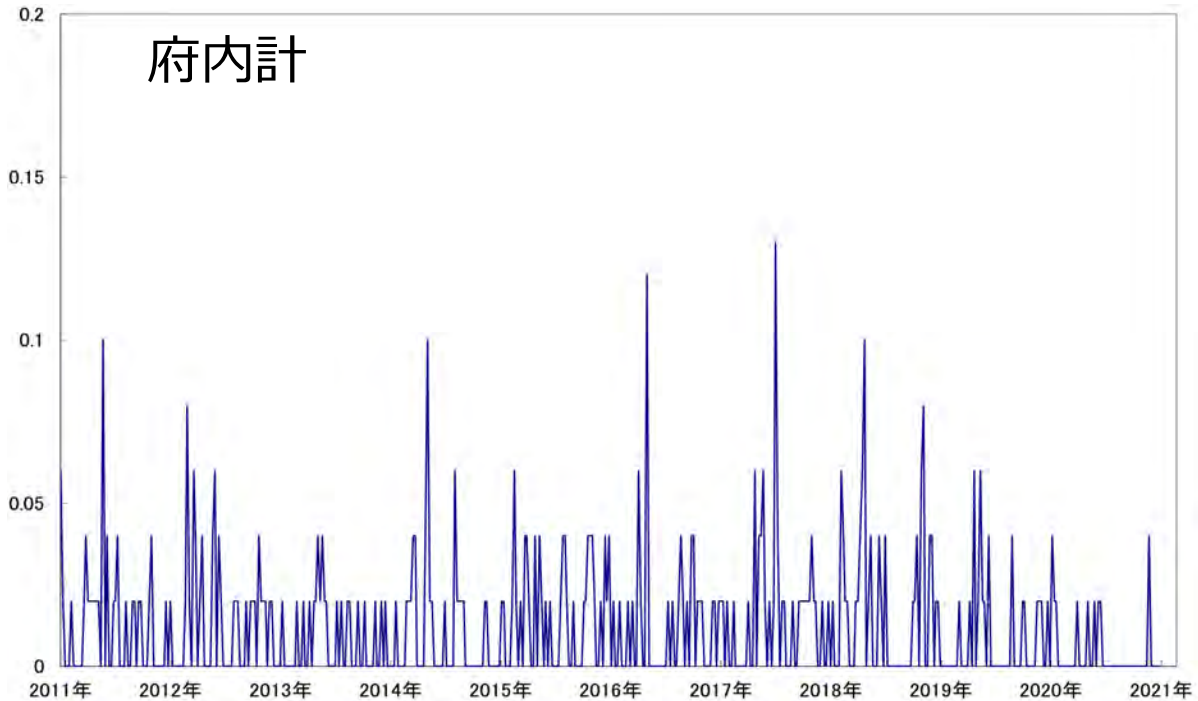
線（2019年第1週～第52週）

棒（2020年第1週～第53週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2011年1週～2020年53週）



定点あたり急性出血性結膜炎報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●流行性角結膜炎

2020年の流行性角結膜炎の報告数は前年の59.0%減の359例で、一定点眼科医療機関あたり0.13であった。

週別発生状況では、府内合計で最も報告数の多かったのは、第13週の定点あたり0.27で、第35週、第36週、37週の0.25がこれに続き、以下、第2週の0.23、第47週の0.21となり、前年同様に府内で定点あたり1.0を超えた週はなかった。本疾患は夏型感染症とされているが、発生件が少ないとその傾向は減弱する。本年は、第6週から第14週（2月～3月）までの9週に全体の22.6%、第41週から第49週（10月～11月）までの9週に全体の20.6%の報告があった。

ブロック別・週別では、定点あたりの報告数が最も多かったのは②三島36週の1.25で、次いで③北河内13週の1.0、以下④中河内37週と51週、⑥堺市31週、⑧大阪市北部13週と41週の0.8が続いた。

年間平均ブロック別で報告数が最も多かったのは、③北河内0.19で、次いで②三島、⑨大阪市西部、⑩大阪市東部の0.14、⑤南河内0.13の順であった。最も低かったのは、⑪大阪市南部の0.06であった。

年齢別では、例年どおり成人（20才以上）の発生件数が多く、本年も306例と全体の85.2%を占めた。

本年も、大阪府内の定点あたりの報告数は、全国集計よりも低かった。

最近6年間の一眼科定点あたりの流行性角結膜炎発生例件数

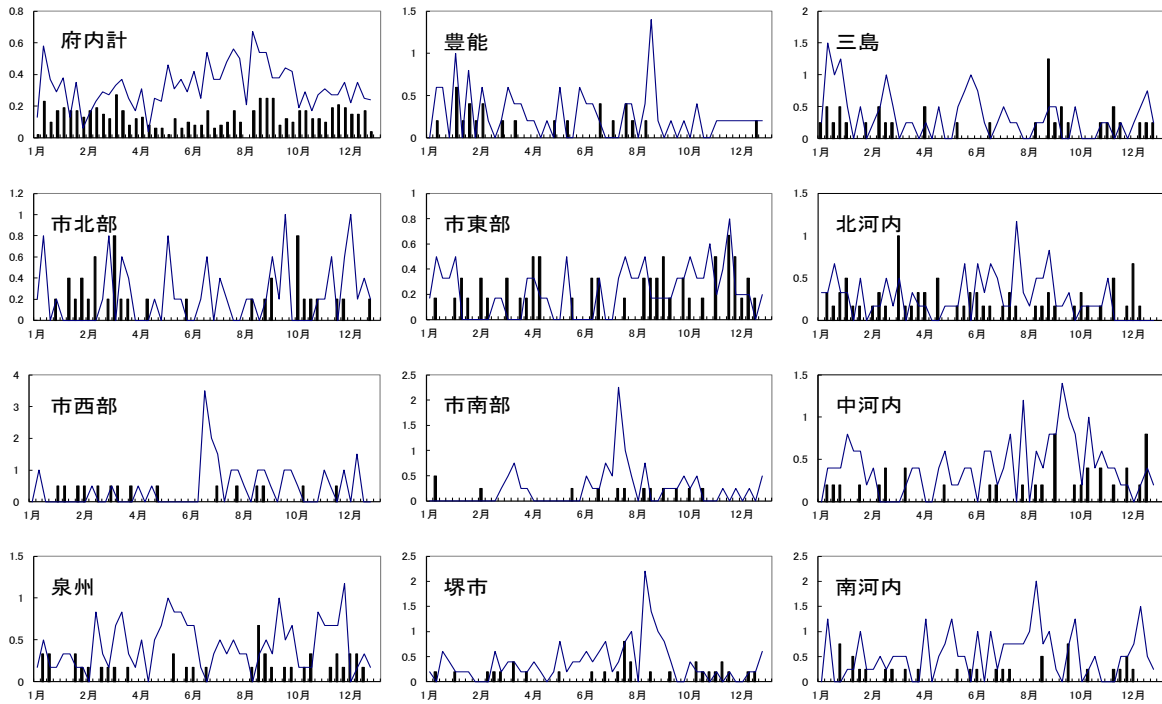
	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
大阪府	0.38	0.54	0.41	0.48	0.32	0.13
全 国	0.69	0.73	0.74	0.85	0.64	0.25

(文責 宮浦)

流行性角結膜炎

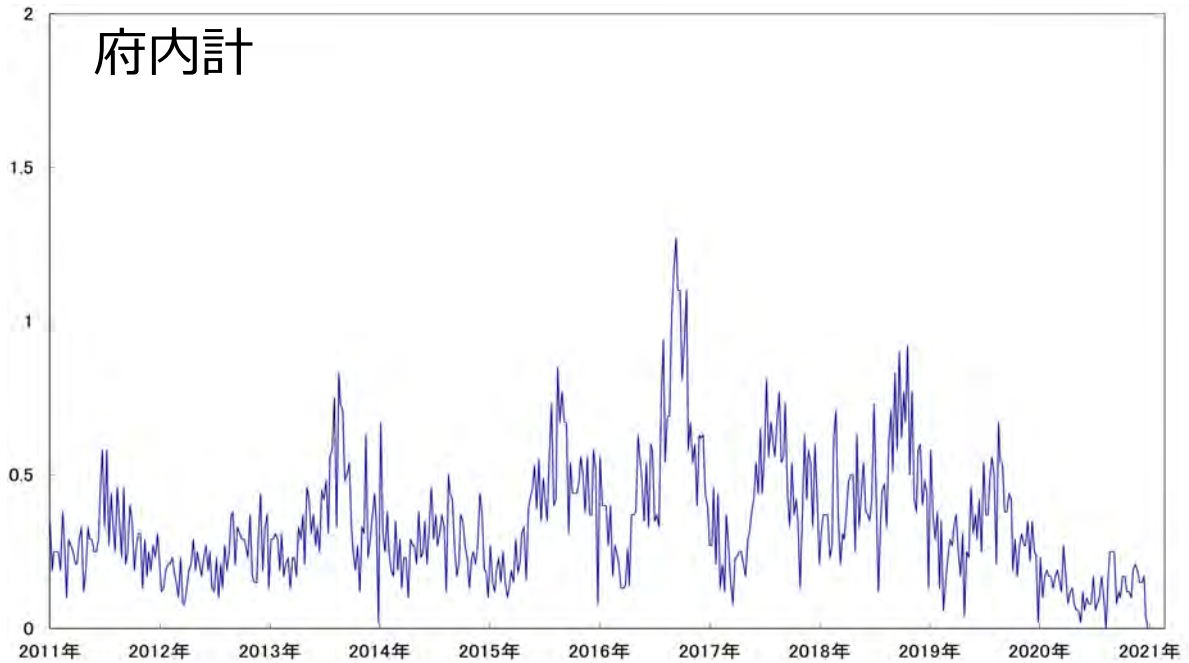
線（2019年第1週～第52週）

棒（2020年第1週～第53週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2011年1週～2020年53週）



定点あたり流行性角結膜炎報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

4) 基幹定点報告（週報）対象疾患

基幹病院定点報告（週報）対象疾患は、5 類感染症の中の細菌性髄膜炎（2013 年 4 月から髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌による、髄膜炎を含む侵襲性感染症が、2014 年 9 月から播種性クリプトコッカス症が全数報告疾患となったので、本項の対象疾患から除く。）、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎（オウム病を除く）、及び、2013 年 10 月から報告対象となった感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る、以下ロタウイルス胃腸炎）の 5 疾患である。

表 基幹病院定点報告（週報）対象疾患のブロック別報告数および定点あたり報告数

ブロック	細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	
	2019 年	2020 年	2019 年	2020 年	2019 年	2020 年	2019 年	2020 年	2019 年	2020 年
(1)豊能	2	1	7	5	6	14	1	0	52	0
(2)三島	7	2	1	3	24	20	0	0	48	1
(3)北河内	0	2	0	0	30	12	0	0	9	0
(4)中河内	0	0	2	0	13	6	0	0	20	0
(5)南河内	1	0	0	1	2	1	0	0	49	1
(6)堺	0	4	20	5	31	24	0	1	55	4
(7)泉州	8	0	1	0	10	1	0	0	85	0
大阪市	0	1	0	1	13	15	0	0	64	0
合計	18	10	31	15	129	93	1	1	382	6
定点あたり大阪	1.10	0.63	1.90	0.94	7.91	5.81	0.06	0.06	23.44	0.38
定点あたり全国	0.96	0.85	1.71	0.95	12.68	7.36	0.13	0.12	9.82	0.52
定点数	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16

表には 2019 年 2020 年の大阪府・市の各基幹定点からの報告数を示した。基幹病院数は 16 ある。1999 年の事業開始時から病院間で報告症例数の差が大きく、ブロック別の検討はしなかった。また、2020 年は新型コロナウイルス感染症の流行のため、緊急事態宣言が発せられるなどから、ヒトとヒトの接触で伝搬する感染症の疫学に大きな影響がみられた。

以下に、各疾患について述べる。

●細菌性髄膜炎

（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、クリプトコッカスを除く）

10 例が報告されている。定点あたり 0.63 で、検出された病原体には水痘帯状疱疹ウイルス 1 例が含まれており、これを除くと 9 例となる。2019 年は 18 例であるが、ロタウイルス 8

例が含まれており、これを除くと10例であった。年齢は0カ月1例、2歳1例、5～9歳2例、10歳1例、60～69歳2例、70～79歳代3例であった。原因菌には肺炎マイコプラズマ3例（7～10歳）、リステリア菌1例（2歳）、ブドウ球菌2例、連鎖球菌1例、未記載1例であった。髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、クリプトコッカスによる髄膜炎は5類全数報告を参照されたい。また、肺炎マイコプラズマを細菌性髄膜炎の原因とすべきか、明確な規定が望まれる。

全国集計では2020年は406例の報告があり、定点あたり0.85、2018年は定点あたり0.96であった。原因菌にはB群レンサ球菌9.6%、黄色ブドウ球菌4.9%、肺炎球菌2.4%、大腸菌1.2%、リステリア菌2.2%、肺炎マイコプラズマ4.4%、などが多いが、また、原因菌がウイルスおよび原因菌不明の症例が合計58.2%を占めていた。

●無菌性髄膜炎

2020年は15例が報告され、クリプトコッカス1例を除くと14例で定点あたり0.88で2019年は31例、定点あたり1.90で、前年比52%減であった。年齢は1～4歳3例、10～14歳3例、20～29歳4例、30～39歳4例であった。月別では8月3例と多く、5～8月に57%の症例があった。原因微生物としては、水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）1例で、その他は陰性または記載なし、あった。一方、本報告書のウイルス検査結果では無菌性髄膜炎症例の髄液や便・咽頭などから2例のべ3株が検出され、型不明のエンテロウイルス1例、インフルエンザAH1pdm09+RSV同時検出例1例であった。疾患名がその他の1例の髄液からヒトパレコウイルス3型が検出されている。

全国集計では2020年は456例、定点あたり0.95、2019年は811例、定点あたり1.71で、2020年は前年比43.8%減であった。原因病原体は88.2%が不明、VZV175例、単純ヘルペス6例、他の病原体はエンテロウイルス1例など、1例ずつである。肺炎マイコプラズマ10例、クリプトコッカス8例が含まれている。国立感染症研究所のIASRのデータをみると無菌性髄膜炎の原因ウイルス検査は2019年の534例から2020年の94例と82.4%の減少で、2020年にはE30の9例が最も多かった。

●マイコプラズマ肺炎

93例の報告があり、定点あたり5.81で、2019年の定点あたり7.91に比し27.9%減であった。年齢分布は（図1-1）6歳をピークに、1～12歳に多かった。2020年の府内の週別報告数および全国の週別報告数を図1-2に示した。本疾患は例年9月頃から増加するが、2020年は秋以降はたいへん少ない状態で推移した。大阪では本疾患は2006年、2011年、2016年をピークとする流行を繰り返しており、2020年は増加することが予測されていた。

全国集計では2020年は定点あたり7.36で、2019年の12.38に比し、42.0%減であった。

診断方法は核酸検出(PCR・LAMP等)が39%、抗原検出が29%、血清抗体価が31%で、2016年以後の検査方法の選択に、大きな変化はみられない。抗原検出の低い感度・偽陽性の存在、血清抗体価の上昇までの日数、高抗体価の長期間の持続に、診断上の注意が必要である。急性期の検査として、核酸検出は感度、特異性が最も優れている、と報告されている。

●クラミジア肺炎(オウム病を除く)

クラミジア・トラコマチス(*Chlamydia trachomatis*)による新生児期の肺炎と肺炎クラミジア(*Chlamydophila (Chlamydia) pneumoniae*)による肺炎が含まれる。オウム病(*Chlamydophila (Chlamydia) psittaci*)は4類全数報告感染症である。

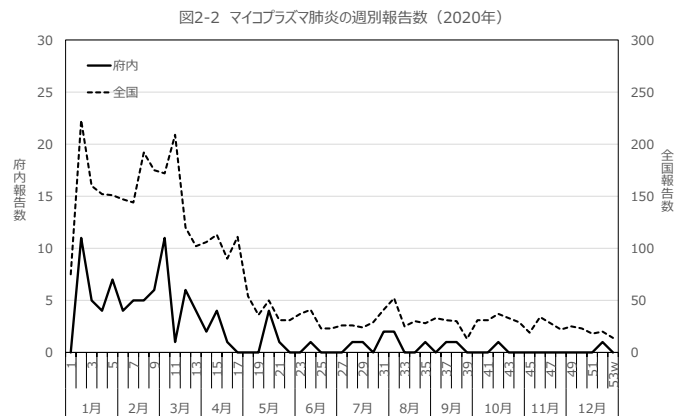
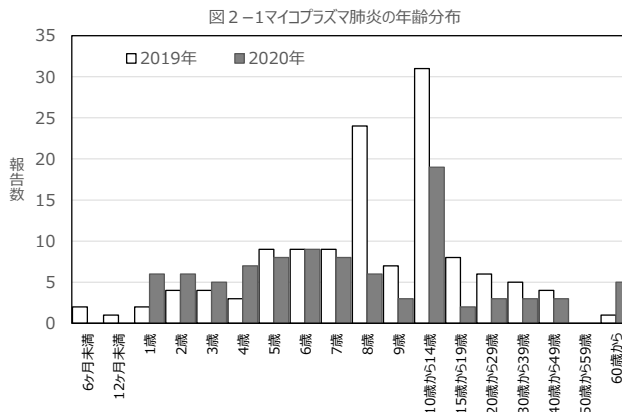
2020年は1例の報告で、2歳、男、検査方法は、当事業ではじめての核酸検出によるものである。クラミジア肺炎は抗体検査で診断されてきたが、以前から、特異性が低いとされている。全国集計では57例の報告で、定点あたり0.12で、2019年の8%減であった。本事業におけるクラミジア肺炎の報告数は以前の1/10程度とすくなく、その要因は、信頼できる血清診断が存在しないことによるものであった。新型コロナウイルス感染症の流行後に、Filmarray[®]など多種類の呼吸器感染症のウイルス、細菌の検出が可能な診断機器の普及がすすんでいるようであり、今後、本疾患の報告も増加すると思われる。

●感染性胃腸炎

(病原体がロタウイルスであるものに限る、以下ロタウイルス胃腸炎)

6例が報告され、定点あたり0.38で、2019年に比し99%の著しい減少であった。週別報告数は51~53週に⑥堺から3例の報告があった。年齢は1歳、2歳が各3例であった。全国では定点あたり0.52であり、2019年の9.82に比し、95%減であった。

(文責：塩見)



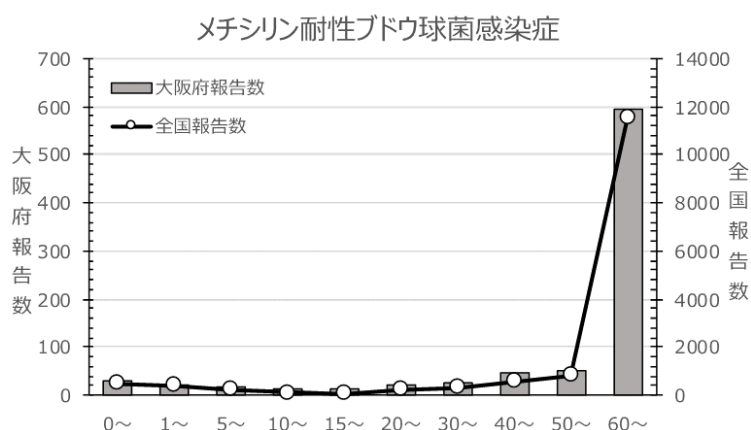
5) 基幹定点報告（月報）対象疾患

基幹定点報告（月報）対象感染症は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の3疾患である。基幹定点報告（月報）対象感染症を報告する大阪府内の基幹病院定点数は17であった。これら薬剤耐性菌は抗菌薬の不適切な使用を背景として、薬剤耐性菌が世界的に増加する一方、新たな抗菌薬の開発は減少傾向にあり、国際社会でも大きな課題となっている。

●メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

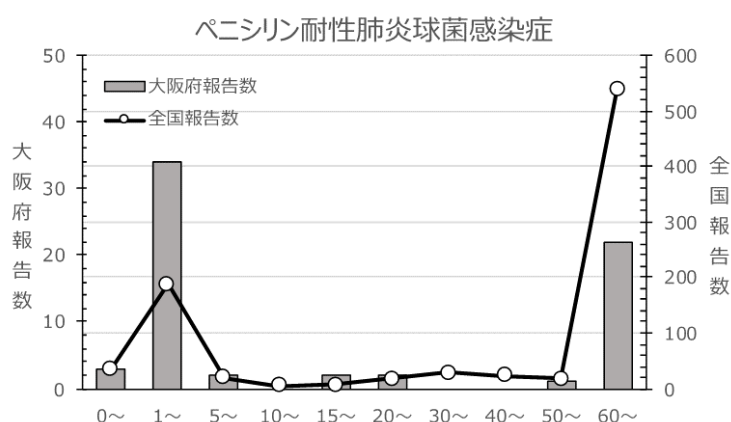
⑩大阪市東部を除く10ブロックから前年比5.9%増の842例の報告があり、定点あたり報告数は49.53であった。年齢別構成は0歳児32例、1～4歳児21例、5～9歳児19例、10～14歳14例、15～19歳12例、20～29歳20例、30～39歳28例、40～49歳49例、50～59歳53例、**60歳以上594例であり、60歳以上が70.5%**を占め、ほぼ前年同様の分布であった。

全国情報（NESID年報 2021年3月8日現在）では前年比8.0%減の14,938例の報告があり、定点あたり報告数は31.19と大阪府より少なかった。全国の年齢別構成をみると60歳以上が11,511例と77.1%を占めた。大阪府内の報告数は、全国の5.6%であった。



●ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

⑦泉州32例、⑤南河内18例、⑥堺市8例、①豊能7例、②三島1例の5ブロックから、前年比18.5%減の66例の報告があり、定点あたり報告数は3.88であった。年齢別構成では0歳児3例、1～4歳児34例、5～9歳児2例、10～14歳0例、15～19歳2例、20～29歳2例、30～39歳0例、40～49歳0例、50～59歳1例、60歳以上22例であり、**0～4歳児と60歳以上が多く、それぞれ56.1%**、



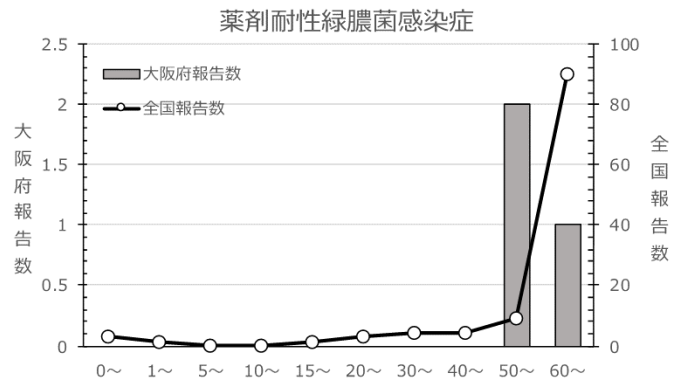
33.3%であった。前年同様に0～4歳児と60歳以上の年齢群での報告数が多かった。

全国情報（NESID年報）では前年比49.9%減の879例と半減しており、定点あたり報告数は1.84と大阪府より少なかった。全国の年齢別構成をみると0～4歳児と60歳以上が多く、それぞれ25.3%、61.3%と大阪府と同様であった。大阪府内の報告数は、全国の7.5%であった。

●薬剤耐性緑膿菌感染症

①豊能2例、⑦泉州1例の2ブロックから3例報告があった。前年6例から減少した。定点あたり報告数は0.18であった。年齢別構成は、50～59歳2例、60歳以上1例であった。

全国情報（NESID年報）では前年比6.5%減の115例の報告があり、定点あたり報告数は0.24と大阪府より多かった。全国の年齢別構成をみると60歳以上が90例と78.3%を占めた。大阪府内の報告数は、全国の2.6%であった。



(文責：原田)

2020年4月28日 大阪府医師会より、府医ニュースとして掲載した。

(7) 2021年(令和3年)4月28日(毎週水曜日発行、但し第2週を除く) 大阪府医ニュース (昭和25年9月7日第三種郵便物認可)(第2962号)

2020(令和2)年 感染症の動向

大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市・豊中市・枚方市・八尾市・寝屋川市・吹田市
感染症発生動向調査委員会

感染症発生動向調査事業は医師会、大阪府、政令・中核市の密接な連携の下に実施されている。大阪府感染症情報解析委員会は毎週水曜日に開催され、定点の先生方からの毎週の患者情報と、大阪健康安全基盤研究所(森ノ宮センター、天王寺センター)、堺市衛生研究所の病原体検出情報とを併せて解析・評価し、還元している。2020年の感染症発生動向調査結果の概要を報告する。

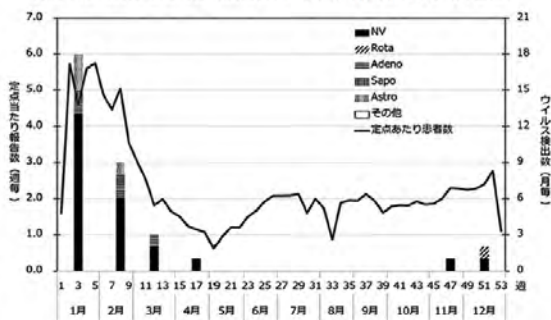
はじめに

2020年、大阪府の小児科定点は196、インフルエンザ定点は298、眼科定点は52、基幹病院定点は16であり、前年とほぼ同様である。小児科・眼科定点疾患の1年間の患者報告数の総計は45,699人で前年より66.8%減少した。インフルエンザを除く疾患別では感染性胃腸炎が1位であり、次いでA群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発疹、咽頭結膜熱、水痘の順である。第6位以下は、ヘルパンギーナ、RSウイルス感染症、伝染性紅斑、手足口病、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎であった。上位5疾患はそれぞれ全体の51.8%、20.5%、8.3%、4.5%、3.9%で、5疾患の合計が全体の89.0%を占めた。

感染性胃腸炎

第1位の感染性胃腸炎の患者報告数は23,692人で、前年に比し57.2%減少し、定点あたり報告数は2.28であった。年齢別では1歳が3,343人(14.1%)と最も多く、2歳が2,387人(10.1%)、3歳が2,016人(8.5%)であり、3歳までで全体の32.7%を占めた。季節別では春期(3月~5月)に16.6%、夏期(6月~8月)に21.0%、秋期(9月~11月)に21.1%、冬期(12月~2月)に41.3%と冬期に多かった。週別定点あたり報告数では第5週(5.74)と第2週(5.72)にピークがあり、第8週(5.06)以後は減少した。年末のピークは第52週(2.77)であった。検出されたウイルスは、ノロウイルスが24株、アデノウイルスが4株、アストロウイルスが4株、ロタウイルスが1株、サボウイルスが1株であった(図1)。基幹定点医療機関からの届出でロタウイルス感染性胃腸炎の報告数は6人であった。

(図1) 感染性胃腸炎ウイルス分離状況
 実線：定点あたり患者数(週ごと)、棒：ウイルス検出数(月ごと)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第2位のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は9,386人で、前年に比し58.3%減少し、定点あたり0.90であった。年齢別では4歳が1,342人(14.3%)で最も多く、5歳が1,262人(13.4%)、6歳が1,072人(11.4%)、3歳が1,058人(11.3%)と続き、全体の50.4%を占めた。季節別では春期に23.5%、夏期に13.7%、秋期に15.0%、冬期に47.8%であり、冬期に多かった。週別定点あたり報告数では第5週(3.16)にピークがあった。以後は減少し第15週(0.83)に1以下となり、第53週まで1を超えることがなかった。

突発性発疹

第3位の突発性発疹は3,809人で、前年に比し15%減少し、定点あたり0.37であった。年齢別では1歳が2,012人(52.8%)で最も多く、6カ月から12カ月未満が1,162人(30.5%)、2歳が428人(11.2%)と続き、全体の94.5%を占めた。季節別では春期に19.9%、夏期に37.0%、秋期に26.2%、冬期に16.9%であり、夏期に多かった。週別定点あたり報告数では第24週(0.61)が最多であり、第25週(0.55)から第29週(0.57)までと、第31週(0.58)、第36週(0.59)で0.5を超えた。

咽頭結膜熱

第4位の咽頭結膜熱は2,049人で、前年に比し60.3%減少し、定点あたり0.20であった。年齢別では1歳が789人(38.5%)で最も多く、2歳が328人(16.0%)、3歳が231人(11.3%)、4歳が186人(9.1%)であり、全体の74.9%を占めた。季節別では春期に15.5%、夏期に21.4%、秋期に27.4%、冬期に35.7%であり、冬期に多かった。週別定点あたり報告数では第6週(0.47)、第5週(0.41)がピークであった。

水痘

第5位の水痘は1,776人で、前年に比し45.0%減少し、定点あたり0.17であった。年齢別では10歳

から14歳が228人(12.8%)、5歳が226人(12.7%)、7歳が199人(11.2%)、6歳が185人(10.4%)、4歳と8歳がそれぞれ162人(9.1%)であり、全体の65.3%を占めた。季節別では春期に20.7%、夏期に14.0%、秋期に23.4%、冬期に41.9%であり、冬期に多かった。週別定点あたり報告数では第2週(0.54)が最多であった。

インフルエンザ

インフルエンザの患者報告数は42,963人で前年に比し51.4%減少し、定点あたり2.70であった。年齢別では10~14歳が8,170人(19.0%)と最も多く、20歳以上が8,150人(19.0%)、6歳が3,438人(8.0%)、7歳が3,367人(7.8%)、8歳が3,296人(7.7%)、5歳が3,130人(7.3%)の順であった。19/20シーズンは週別定点あたり報告数が20を超えたのは第4週(21.19)であり、以後は減少し、第13週(0.52)に1以下となり終息した。以後は第53週(0.02)まで1を超えることはなかった。19/20シーズンに検出されたインフルエンザウイルスはAH1pdm09が224株、AH3亜型が10株、B型Victoriaが81株、B型Yamagataが1株であった。AH1pdm09は1月、B型Victoriaは2月にピークがあった(図2)。

2020年は、新型コロナウイルスの流行に伴う社会隔離政策や様々な感染予防策により、3月以降のその他の感染症の発生が激減した。上記疾患の報告患者数の発生率が冬期に多いのはその影響がある。

おわりに

1982(昭和57)年に感染症発生動向調査事業を開始して38年が経過しました。この間、関係各位のご理解・ご支援により、貴重な調査結果が集積されています。これらの調査結果の解析や発信が医療や感染症対策に資し、府民の健康・安心・安全に寄与しています。2021年もご理解・ご支援の程よろしくお願いいたします。

報告：東野博彦(河内医師会)

(図2) インフルエンザウイルス分離状況
 実線：定点あたり患者数(週ごと)、棒：ウイルス検出数(月ごと)

